

第 1966 回報告

高鈴山～助川山（日立アルプス）縦走

実施日 4月15日(日) 晴れ

係・記録 小澤 勝太郎

報 告

当初の計画は14日(土)のところ降水確率50%予報のため、15日(日)に延期した。コースを御岩神社の満開のシャクナゲを期待して高峯山をパスし、御岩神社から登ったところがシャクナゲは未だ蕾未満でちょっと残念。春は未だ浅い感じ。 目的の「岩ウチワ」に奥の院で出会う。一抱えある岩の上に20輪位咲いていたが満開ではない。更に上部の御岩山に期待して、一般道を外れトレースに従い辿る。これがスタンスの少ない岩場ルートでチョイ苦労。ようやく「岩ウチワ」の群生に巡りあい、白、ピンクの可憐な花々にホットする。高鈴山の山頂から久慈男体山、八溝山を望み、助川山まで縦走。人数で茨城の早春の山を軽快に歩き、予定より1時間早く帰浜しました。

コースタイム

日立駅バス 8:40＝御岩神社 9:15/25・・・奥の院 10:05/15・・・御岩山 11:15/35・・・高鈴山 12:05/45
・・・金山百観音 13:40/50・・・助川山 14:35/50・・・日立駅 16:15＝横浜駅着 19:00

参加者

岩方、大川、◎小澤

計3名

第 1967 回報告

街道を歩く（日光街道その3）

実施日 5月26日(日) 晴

係・芹沢隆久 記録・熊谷松治

報 告

日光街道3回目は、江戸日本橋から三つ目の宿場・越谷が起点だった。東武越谷駅9:22に出発。
越谷御殿跡から久伊豆神社に寄って、千間台第一公園で昼食。午後は備後一里塚の石柱を見て、藤塚橋（別名・賃取り橋）を確認して、八坂神社で一休み。市庁舎の一画にある「春日部郷土資料館」を見学。
古い山門のある観音寺、日光街道の道しるべのある九品寺を経て、やっと東武動物公園駅に着く。
それにしても皆さんの健脚には脱帽であった。

コースタイム

越谷 9:22・・・越谷御殿跡 9:55・・・久伊豆神社 10:05～10・・・千間台第一公園 11:45～12:20・・・歓喜院
12:45・・・
備後一里塚跡 13:12・・・藤塚橋 13:20・・・八坂神社 13:50～14:00・・・春日部郷土資料館 14:20～30・・・
・観音院 15:25～30・・・九品寺 16:00・・・三本木一里塚跡 16:25・・・東武動物公園駅 16:50

参加者

○青柳、足立、◎芹沢、戸野部、松本、岩方美、熊谷 計7名。

第1971回報告

日向山 (1660m)

実施日 4月28日(土) 快晴

係・記録 竹尾亮三

報告

ミツバツツジ、エイザンスミレを楽しみながら林道を登っていくと冠雪の甲斐駒ヶ岳の勇姿が現れてくる。
錦滝のある東屋で再度ストレッチを行い、急登を時にはロープ、鎖、鉄階段を使用して慎重に登る。
やがて雁ヶ原の、まるで雪原、砂浜のような白い斜面が見えてくる。この苦しい斜面を登りきると目の
める様な光景が広がる。花崗岩の塔がにょきにょきと生えている。甲斐駒は迫力一杯に迫り、八ヶ岳
の峻峰が並ぶ。風が無いので、寝転んで昼寝をしている登山者もいる。ゆっくりと昼食をとり、復路は
緩斜面の周回コースを下りTaxiの待つ矢立石に到着。期待通りの魅力一杯の山、展望を楽しめた山行で
した。

コースタイム

韮崎駅 8:50＝taxi＝矢立石 9:30～40・・・錦滝 10:30～45・・・雁ヶ原 11:35・・・日向山 12:05～13:25
・・・矢立石 15:10＝韮崎駅 15:50～16:23

参加者

井上（忠）、服部、谷田部、山田、◎竹尾

計5名

第1973回報告

衣笠山～大楠山

実施日 5月1日(火) 天候 小雨後晴れ

係・記録 谷真理子

報告

予定時刻丁度に歩き出す。途中桐の花が満開となっているのを見つけ花談義が始まる。衣笠山より衣笠城址へと向かう。早めのランチをとったが通り雨に出くわす。皆ビクともせず傘を広げて悠々と食べ終わると大楠山へ向かう。自動車道の上の橋を渡ると、芹沢前支部長の案内で草原の道を歩き、開発途上で打ち切られたというアスファルトの林道とつながる大楠山登山口に立つ。230 段の階段を登り詰めると山頂へ着く。下山は雨後の為、滑るので前田橋方面はやめて芦名へ出ることにした。林道を下り、大楠山入口交差点へ出る。そこにて解散し、それぞれバスにて帰路につく。

コースタイム

衣笠駅 9:30・・・衣笠山 10:15・・・新道分岐 10:35・・・衣笠山城址 11:00／11:40・・・大楠山頂上 13:44／14:10・・・
芦名 15:13・・・大楠山入口交差点 15:30＝バス逗子駅

参加者

○芹沢、戸野部、上田、加藤、大溝（新入会員）、◎谷 計 6 名

第 1972 回報告

丹沢長大縦走シリーズ（その 2）

実施日 5 月 7 日（月）～8 日（火） 晴れ

係・齋藤郁夫 記録・渡部道明

報 告

20 日：駿河小山からタクシーで登山口まで入る。空模様は曇りで少し寒い感じでしたが、登り始めて小さなアップダウンを繰り返し、尾根道を歩く頃には顔から汗が出てきた。時折谷間からの涼風が足元を吹き抜けて、快適な尾根歩きになる。西丹沢のブナ原生林は新緑が特に素晴らしく、薄日が射す中、小鳥の囀りに耳を傾ける。スマレ、アカヤシオ、ヤマツツジなどが私達を迎えてくれた。長い尾根道を右に左に新緑を堪能しながら行くと菰釣山である。富士山や山中湖を眺めながら一段と美味しい昼食を摂りました。宿舎は横浜市内学童のホームステイになっていて週末は満員らしかったが私達とは丁度入れ替わりになり、貸切状態になりました。夕食は山の幸が盛り沢山で、山も食も大満足の日でした。

21 日：世紀の天体ショー、金環日食の日である。曇り空から時々日が射すが、ゆっくり観察している暇がない。宿のおかみさんに登山口まで送って頂き、せせらぎの音を聴きながら歩き始める。城ヶ尾峠からキツイ登りを皆黙々と登る。新緑のトンネルを抜けると束の間の青空にブナの樹林が輝いて見える。間もなくお昼の時間だが、水晶沢の頭までもう一頑張りする。水晶沢の頭は余り展望はないが、空を覆

うブナの梢を渡る涼風が汗ばんだ肌に心地よい。紫外線を避けて、林の中で昼食にする。

加入道山を目指しながら、白石峠から下りにかかる。白石沢は一旦雨が降ると急流になるらしく、

その分雨が止むと干上がるのも早いようだ。ガレ場や倒木、崩壊がひどい。岩盤が急流に磨かれて大理

石の様に光っている。ここ数日の天気で水流がないので比較的歩きやすい。ハイカーが思ったより少な

く全体的に静かな山歩きを楽しめました。

コースタイム

20日 駿河小山駅 7:20＝タクシー＝7:50 山伏峠 8:02・・・大棚の頭 8:35・・・石保土山 9:33・・・
湯沢の頭 10:58・・・菰釣山 11:55/12:35・・・避難小屋 13:01・・・中の丸 14:02・・・城ヶ尾峠 15:00・・・宿
舎 16:21

21日 宿舎 7:18＝車＝7:36・・・城ヶ尾峠 8:50・・・大界木の頭 9:35・・・モロクボ沢の頭 10:30・・・バン木の
頭 11:30
・・・水晶沢の頭 12:50/13:20・・・白石峠 13:44・・・用木出合 15:35・・・自然教室 16:05 12:10～
12:40・・・
世附峠 12:55・・・不老山 13:43・・・仙人広場 14:20・・・金時公園 15:40～15:55＝駿河小山駅 16:30

参加者

◎ 斉藤（郁）、渡部、湯浅

計3名

第1974回報告

京ヶ倉（990m）・光城山（912m）

実施日 5月5日（水・祝）快晴～6日（木・祝）曇り時々霧雨

係・記録 竹尾亮三

報告

5日 登山口で快晴下、八重桜を見ながら昼食を済ませ出発。登るにつれ新緑の間から常念岳など雪を被った

北アルプスの山々が、眼下にはU字型に蛇行した犀川が美しい。梯子、ロープがある急登になると見事に

咲いたヒカゲツツジの群生が続く。一枚岩の馬の背の岩稜を慎重に通り過ぎると山頂である。下りは往

路を戻るが、余裕ができ、剣刷の展望岩に寄り、再び華麗なヒカゲツツジを楽しみながらタクシーの待

つ登山口に戻る。

6日 朝の青空が、田沢駅に着くと曇り空に変わっている。登山口まで taxi に変更。花が散った見事なソメ

イヨシノの木が山頂まで続く山道を登って行く。途中で霧雨に会うが、桜の大木で気にならない。山道沿

いに咲く花も色々である。山頂すぐ手前の休憩小屋でコーヒブレイク。今日は新緑のみで遠望はなし。

山頂には八重桜や山桜がまだ咲き残り、降りの周遊コースでは花の先生 K さんが喜ぶ程、色々な花群を楽

しみ登山口に戻る。お天気が回復、駅まで素晴らしいハナミズキのピンク、白の大きい花が続くのを楽し

む。北アルプスの豪華な展望と満開のヒカゲツツジ群、花々を十分に楽しんだ山行でした。



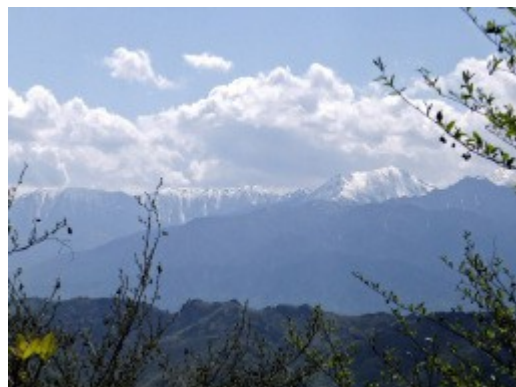
ハルリンドウ

ヒカゲツツジと京ヶ倉



ヒカゲツツジ

常念岳と蝶ヶ岳(左)





京ヶ倉

コースタイム

5 日 明科駅 11:15 = taxi = 京ヶ倉登山口 11:40 (昼) ~ 12:20... 京ヶ倉 14:20 ~ 40... 剣刷り展望岩 14:50

... 京ヶ倉登山口 16:35 = taxi = 明科駅 17:05 = 松本 17:20... 夕食後ビジネスホテル

6 日 松本 8:40 = 田沢 8:48 ~ 9:00 = taxi = 光城山登山口 9:15... 光城山 10:15 ~ 35... 周回コース... 登山口 11:25... 田沢駅 12:26 = 松本 12:34 (昼食) ~ 14:12

参加者

足立、柿沢、小嶋、佐々木、柴田、和久田、◎竹尾

計 7 名

第 1979 回報告 薬師岳 (1420m) ~ 夕日岳 (14526m) ~ 地蔵岳 (1483m)

実施日 5月13日(日)快晴 14日 快晴~15日(火)雨

係・記録 竹尾亮三

報 告

13 日 満開のアカヤシオと華厳の滝を見たく、茶ノ木平へは明智平展望台からスタートする。華厳の滝、中禅寺湖、日光連山の大展望が素晴らしい。満開の淡いピンクの優雅なアカヤシオを常に見ながら登山道を登る。日光白根山は雪で真白。男体山、女峰山は残雪が残り、木々の間から常に一緒。アカヤシオ越しに華厳の滝を望む観瀑台を経由し、不注意にも標識を見過ごす。戻って茶ノ平に到着。ここからの男体山は雄大。中禅寺湖に下ると咲き残った桜が迎えてくれる。湖畔を 10 分歩き、湖畔亭に予定時刻に到着。温泉が気持ち良い。

14 日 宿から taxi で新緑が美しい細尾峠に到着。登山道を登るとウグミツバツツジ、オオバカメノキの花がまず迎えてくれる。登るにつれ見頃のアカヤシオが次々に現れる。濃いピンクと薄いピンクの2種類に心が和む。急登を経て地蔵岳に到着。今日も日光連山は青空で映える。ここか

らアップダウンを繰り返すが、山道は快適で、山桜、アカヤシオ、カラマツの新芽などに元気付けられる。今回のハイライトの夕日岳に到着。素晴らしい景色である。この景色を見ながら早い昼食にする。地蔵岳から再び往路をアカヤシオを楽しみながら taxi の待つ細尾峠に。夜はカラオケやダンスを楽しむ人も。

15日 朝から雨である。おおりのサービスで、バスで雨の中、半月山の展望台に向かう。運転手が車窓から新緑やアカヤシオ、トウゴクミツバツツジの PR をするが効果なし。昼食所の「表参道」でお蕎麦を食べ、横浜行のバスに乗換え帰路に着く。期待通りのアカヤシオと展望を楽しんだ山行に感謝です。



観瀑台より、アカヤシオ、華厳滝、中善寺湖の絶景



アカヤシオの後方に「まだ雪をかぶっている上越の山並み



男体山とアカヤシオ

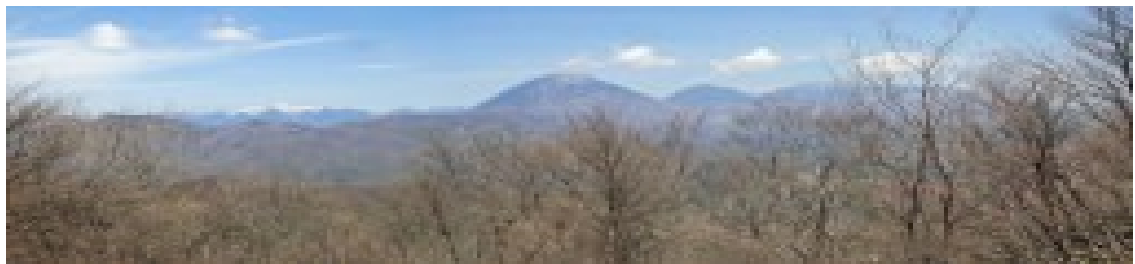




薬師岳の頂上にて



夕日岳の山頂にて



左から 男体山 大真名子山 女峰山

コースタイム

- 13 日 表参道 11:30 = taxi = 明智平 11:55 ロープウェイ = 展望台 12:25... 観瀑台 14:10...
茶ノ木平 15:00... 中禅寺湖... 湖畔亭 16:05 (泊)
- 14 日 湖畔亭 6:05 = taxi = 細尾峠 6:40... 薬師岳 7:50~8:05... 夕日岳 10:25~昼 11:10...
蔵岳 11:45~55 ... 細尾峠 15:05 = taxi = 湖畔亭 15:40 (泊)
- 15 日 湖畔亭 10:15 = バス = 半月山展望台 = 「表参道」 (昼食) = 横浜 16:30

参加者

○和智、☆佐々木、有山、大野、佐藤（囿）、足立、☆今井、依田、岩方、山田、渡部、◎竹尾
計 12 名

第 1977 回報告

浅間尾根

実施日 5月26日(土) 曇り時々晴れ

係・宮本省治 記録・久保正

報 告

五日市駅はハイカーの行列ができていましたが、臨時便が出て座ることができました。温泉センターで下車して、道路から浅間尾根分岐までは、いきなりの急登で息を切らしながら登りました。ツツジや突然現れた雉の幼鳥に癒されながら一汗かくと浅間尾根の分岐に着きました。ここからは、昔の物資運搬用生活道で快適な尾根歩きが続きました。一本松(松はなく三角点あり)で早めの昼食を取り、その後も快適なペースで歩き、浅間嶺を経て払沢の滝入口に着き、最後は日本の滝 100 選「払沢の滝」を見学してバスで五日市駅に戻りました。爽やかな天候のもとで、山道を物資を背負って運んだ先人の苦勞をしのびながら、すばらしい森林浴ハイキングの一日となりました。

コースタイム

五日市駅 8:30・・・温泉センターバス停 9:25・・・仲の平分岐 10:10・・・一本松 11:15 (昼食)・・・浅間嶺 12:30
・・・払沢の滝入口 14:15・・・払沢の滝 14:30・・・本宿バス停 14:58-五日市駅 15:20

参加者

◎宮本、久保 計 2 名

第 1980 回報告

丹沢長大縦走シリーズ (その 3)

実施日 5月20日(日)曇/晴～21日(月)曇り

係・斉藤 郁夫 記録 湯浅 克枝

報 告

20日:駿河小山からタクシーで登山口まで入る。空模様は曇りで少し寒い感じでしたが、登り始めて小さな

アップダウンを繰り返し、尾根道を歩く頃には顔から汗が出てきた。時折谷間からの涼風が足元を吹き抜けて、快適な尾根歩きになる。西丹沢のブナ原生林は新緑が特に素晴らしく、薄日が射す中、小鳥の囀りに耳を傾ける。スマレ、アカヤシオ、ヤマツツジなどが私達を迎えてくれた。長い尾根道を右に左に新緑を堪能しながら行くと菰釣山である。富士山や山中湖を眺めながら一段と美味しい昼食を摂りました。宿舎は横浜市内学童のホームステイになっていて週末は満員らしかったが私達とは丁度入れ替わりになり、貸切状態になりました。夕食は山の幸が盛り沢山で、山も食も大満足の日でした。

21日：世紀の天体ショー、金環日食の日である。曇り空から時々日が射すが、ゆっくり観察している暇がない。宿のおかみさんに登山口まで送って頂き、せせらぎの音を聴きながら歩き始める。城ヶ尾峠からキツイ登りを皆黙々と登る。新緑のトンネルを抜けると束の間の青空にブナの樹林が輝いて見える。間もなくお昼の時間だが、水晶沢の頭までもう一頑張りする。水晶沢の頭は余り展望はないが、空を覆うブナの梢を渡る涼風が汗ばんだ肌に心地よい。紫外線を避けて、林の中で昼食にする。加入道山を目指しながら、白石峠から下りにかかる。白石沢は一旦雨が降ると急流になるらしく、その分雨が止むと干上がるのも早いようだ。ガレ場や倒木、崩壊がひどい。岩盤が急流に磨かれて大理石の様に光っている。ここ数日の天気で水流がないので比較的歩きやすい。ハイカーが思ったより少なく全体的に静かな山歩きを楽しめました。

コースタイム

20日 駿河小山駅 7:20＝タクシー＝7:50 山伏峠 8:02・・・大棚の頭 8:35・・・石保土山 9:33・・・湯沢の頭 10:58・・・菰釣山 11:55/12:35・・・避難小屋 13:01・・・中の丸 14:02・・・城ヶ尾峠 15:00・・・宿舎 16:21

21日 宿舎 7:18＝車＝7:36・・・城ヶ尾峠 8:50・・・大界木の頭 9:35・・・モロクボ沢の頭 10:30・・・バン木の頭 11:30・・・水晶沢の頭 12:50/13:20・・・白石峠 13:44・・・用木出合 15:35・・・自然教室 16:05 12:10～12:40・・・世附峠 12:55・・・不老山 13:43・・・仙人広場 14:20・・・金時公園 15:40～15:55＝駿河小山駅 16:30

参加者

◎ 斉藤（郁）、渡部、湯浅 計3名

第1978回報告

街道を歩く（日光街道その3）

実施日 5月26日（日） 晴

係・芹沢隆久 記録・熊谷松治

報 告

日光街道3回目は、江戸日本橋から三つ目の宿場・越谷が起点だった。東武越谷駅を9:22に出発。

越谷御殿跡から久伊豆神社に寄って、千間台第一公園で昼食。午後は備後一里塚の石柱を見て、藤塚橋(別名・賃取り橋)を確認して、八坂神社で一休み。市庁舎の一画にある「春日部郷土資料館」を見学。古い山門のある観音寺、日光街道の道しるべのある九品寺を経て、やっと東武動物公園駅に着く。それにしても皆さんの健脚には脱帽であった。

コースタイム

越谷 9:22・・・越谷御殿跡 9:55・・・久伊豆神社 10:05/10・・・千間台第一公園 11:45/12:20・・・歓喜院 12:45・・・
備後一里塚跡 13:12・・・藤塚橋 13:20・・・八坂神社 13:50/14:00・・・春日部郷土資料館 14:20/30・・・観音院 15:25/30・・・九品寺 16:00・・・三本木一里塚跡 16:25・・・東武動物公園駅 16:50

参加者

◎芹沢、○青柳、足立、戸野部、松本、岩方、熊谷 計7名。

第1981回報告

明神峠～不老山

実施日 6月1日(金)

係・記録 谷 真理子

報 告

梅雨の真近を思わせる蒸し暑くなった明神峠より歩く。湯船山より先の新緑の巨大ブナの木に皆ビックリ！樹下の二人にてもサンショウバラの花は数本の木にパラパラ程度で咲いていた。花よりダンゴか？サンショウの木より実を取っている主婦達もいた。本年は早すぎた日付けの山行計画であった事を内心反省した。ランチの途中から雨となり出発頃には、本格的な降りとなり、やむを得ず歩き出す。世附峠より急坂を登れば晴れ間になり、雨具を脱げばまた降り出し、キツネの嫁入りだと言えば、タヌキの嫁入りだとの声が上がり皆一同大爆笑となり、キツイ坂道も何のその！不老山頂上より下りのみの足まかせて林道へ抜け金時公園に着く。雨が激しく降り出した頃駅へ着き解散し、到着していた電車に乗り込み早々に帰路へついた。

コースタイム

駅＝タクシー＝明神峠 9:35・・・湯船山 10:15・・・白クラ頭 11:08・・・峯坂峠 11:50・・・樹下の二人

12:10～12:40・・・世附峠 12:55・・・不老山 13:43・・・仙人広場 14:20・・・金時公園 15:40～15:55
＝＝駿河小山駅 16:30

参加者

○井上、青柳、岩方、和久田、今泉、湯浅、柴田、大溝、◎谷 計 9 名

第 1983 回報告

市沢のホタル観賞

実施日 6 月 10 日(日)曇り

係・記録 祖父川精治

報 告

新設された横浜市たちばなの丘公園に隣接する、市内最大のホタルの生息地である市沢谷戸。昨年はピークが10日の300匹台。桜前線同様に季節変動があり今年の最盛期は1週間も早く、2日、3日の500匹台、7日400匹台と近年では例を見ない記録的な出没数である。自然の生物相手では、その見極めがほんとに難しい。曇天のこの夜、19時頃から暗い沢筋で光り始める。移動しながら3ヶ所のポイントを選んで鑑賞する。目算で400匹台は確か、文字どおり幻想的な光景であった。

遥か遠くでホトギスが「テッペンカケタカ」と鳴いていた。

コースタイム

1 7 時 3 0 分 から 2 0 時 3 0 分 歩数計で 6, 000 歩、 4. 2 キロ

参加者

◎祖父川、○井上夫妻、同妹、竹尾、有山、今井、大野、依田、川野、岩方、青柳、湯浅、金本、小笠原夫妻、
関、加藤、服部、佐尾、及川、佐々木、柿沢、松本、橋本 計 2 5 名

第 1985 回報告

赤城山（黒檜山） (1, 828m)

実施日 6 月 26 日(火) 曇・霧

係・記録 竹尾亮三

報 告

車が青空一杯の市街を過ぎて山麓に入ると薄く霧に包まれている。白樺牧場の満開のレンゲツツジの大群生を車窓から見て登山口に到着。急坂が鉄の階段で整備された山道を登り、満開のヤマツツジやレン

ゲツツジのある稜線を緩やかに登り駒ヶ岳に到着。展望はないが快適な状態で昼食を済ませ、紅サラサドウダンや咲残ったシロヤシオなども楽しみ、黒檜山に到着。ここでも展望はない。岩が多く、山道がはっきりしない急坂を慎重に下り、途中で大沼、小沼を見下ろし、大沼湖畔の登山口を経て、ビジターセンターから直通バスに乗込む。梅雨の晴間を選び、夏山に向けての山行を楽しみました。

コースタイム

前橋駅 9:30＝taxi＝駒ヶ岳登山口 10:10～20・・・駒ヶ岳 11:40～昼食 12:20・・・黒檜山 13:20～13:40
・・・黒檜山登山口 15:25・・・ビジターセンターバス停 15:45～ 15:50 バス＝前橋駅 16:45

参加者

岩方、加藤、佐々木、和久田、◎竹尾

計5名

第1986回報告

六ッ石山 (1,479 m)

実施日 6月30日(土) 晴れ

係・宮本省治 記録・今泉美代子

報 告

六ッ石山は石尾根上の一峰で山頂は草原が広がり奥多摩三山が望まれて眺めもよいはずですが薄く雲がかかり残念でした。いきなりの2時間の急坂とその後の防火帯の切られた明るい尾根歩き1時間で山頂へ。休日の為か我々以外にも若者数名が食事をしていた。ゆっくり昼食をたのしみ帰りはひたすら自然林、植林の中を交互に出入りしながら下り奥多摩駅に出る。梅雨の晴れ間の脚力アップの山行でした。

コースタイム

奥多摩駅 8:30＝奥多摩湖バス停 9:00・・・登山口 9:05・・・神社 9:45・・・山頂 11:50 (昼食) 12:25・・・奥多摩駅 15:15

参加者

板垣、小笠原、竹尾、服部、○和智、◎宮本、今泉 計7名

第1976回報告

御 前 山 (1,405m)

実施日 7月7日(土) 曇り

係・小澤勝太郎 記録・栗田克行

報 告

全国が雨予報の中で、奥多摩の昼間は曇りの予報のため催行実施。小河内ダムを渡り登山口から急坂を上り始めると次第にガスが出始めて視界は効かない。サス沢山を過ぎてシカの鳴き声らしき音を聞くうちに、今度は春セミの鳴き声に包まれる中を上り続ける。御前山の山頂での昼食後、避難小屋を過ぎて進んだときにコース間違いに気づくが、そのまま堺橋を目指して下った。霧雨はあったものの奥多摩駅に着いたとき、大粒の雨が降り出すというラッキーな山行でした。

コースタイム

バス 8:35＝奥多摩湖バス停 9:15・・・サス沢山 10:26～10:35・・・惣岳山 11:55～12:0・・・御前山 12:20
昼食 13:00・・・避難小屋 13:08～13:16・・・栃寄ノ大滝休憩所 14:20～14:31・・・堺橋 15:30/15:46＝奥多摩駅 15:55

参加者

◎小澤、○竹尾、板垣、古屋、大川、湯浅、石井（誠）、久保、栗田 計9名

第1988回報告 阿弥陀岳 (2,805m) ・ 赤岳 (2,899m) ・ 権現岳 (2,715m)

実施日 7月21日(土)～23日(月)

係・井上忠秋 記録・渡部道明

報 告

21日 曇り後小雨 美濃戸口からのトレックコース前日迄の雨のせいか樹木は新緑の様な葉色で清々しく美しい、又森の匂いが好い、但し柳川の流れは川幅一杯に泥水が奔流となって流れ南沢は危険との事であった。天候も13時半より雨具が必要となったなか15時近く 本日の宿赤岳鉱泉に到着。

温泉で汗を流し食事前のひと時疲れを癒やす。夕食はステーキ 豪勢

22日 曇り 5時35分雨を心配しながら予定より早めに出発 雲、霧の為視界利かず中山展望台を省き行者小屋から阿弥陀岳へ向かう 森林限界手前 白びその白く水々しい新芽が目を引き 樹間から硫黄岳の平らな山頂が見えるようになった。赤岳への分岐にザックをデポし空身で阿弥陀岳を往復する。
キバナジャクナゲ、タカネグンナイフウロ、ツクバネソウ等々可憐な草花が疲れを忘れる。中岳・文三郎尾根分岐を過ぎ岩場・鎖場をよじ登り八ヶ岳主峰「赤岳」登頂は11時45分 展望は利かず他パーティーも少なく気温も低く何かしら寒々とした感じであった。キレット小屋へは岩場でガレたルンゼを鎖を使いながらの下りで神経を疲れさせたがコマクサの群落が次々と現れ気分を和らげてくれた。

14 時頃雲の切れ間より権現岳が一寸だけ姿を見せたが又霧の中 そのうちキレット小屋着。

小屋の接待はユニークだ、4 時頃グループごとに大皿 3 枚に「おつまみ」を調理大盛りとし提供された
従ってビール、酒、焼酎、その他で疲れを吹き飛ばした後カレーライスの食事 米は薪ストーブで釜
炊き(味は未だし)であった。

23 日 霧が切れ好天気が期待される中での朝食、5 時 45 分予定より早く出発した。6 時過ぎより雲海上に遠
く奥秩父,富士山,南アルプス,乗鞍岳,御嶽,中央アルプス,北アルプス?を望み、昨日踏破した赤岳が
くっきりと全貌をあらわした、ツルネ手前での展望が素晴らしく何とも言えぬ醍醐味だ。 長い鉄製
源氏梯子をよじ登り丁度 8:00 に権現山頂に立てたのは幸いであった。唯雲海が棚引いたままで中景が
隠れたままだったのは心残りであった。下りの岩場や鎖場を慎重に足を運びながら三頭山、前三頭山
と順調に天の河原に昼近く到着した、この間一人の老人が登山道補修を「楽しんで遊んでいる」と語
ったのは印象的であり更に朝大雨が降ったとの言に山の気象変化に驚かされた。 12:40 天女山登山
口へ全員無事下山、甲斐大泉パノラマ温泉で一浴後解散となった。 夏山のハイシーズンに厳しい山
岳コースを予定通り無事トレックできました、踏破経路、宿泊条件、天候を含めても最高の「山歩き」
が出来ましたのは良きガイドンスと皆様のお気持ちが一つになった結果と深く感謝いたしております。

コースタイム

7 月 21 日 茅野駅 10:28=バス=11:15 美濃戸口 11:30・・・12:30 環境広場 12:40・・・14:40 赤岳鉱泉
22 日 赤岳鉱泉 5:35・・・中山乗越 6:06・・・6:18 行者小屋 6:26・・・8:05 阿弥陀岳分岐 8:15・・・8:42
阿弥陀岳 8:50・・・9:15 分岐 9:40・・・中岳 10:05・・・文三郎尾根分岐 10:45・・・11:45 赤岳 12:10
・・・ルンゼ下 13:45・・・14:20 キレット小屋
23 日 キレット小屋 5:46・・・6:25 ツルネ 6:30・・・8:00 権現岳 8:20・・・9:10 三頭山 9:20・・・9:45
前三頭山 9:55・・・11:50 天の河原 12:00・・・天女山・・・12:40 天女山登山口・・・13:35 甲斐大泉
(パノラマの湯)

参加者

◎井上 (忠) 足立 今泉 佐々木 谷田部 渡部 以上 6 名

第 1990 回報告 白馬岳 (2932m) ～杓子岳 (2812m) ～白馬鑓ヶ岳 (2903m)

実施日 7 月 29 日(日)～8 月 1 日(水)

係・記録 竹尾亮三

報 告

29 日 晴 登山道に入ると色々な花が迎えてくれる。最初の雪渓を登るとワタスゲ群の天狗原に到着。

乗鞍岳に向かうと岩のゴロゴロした急登が始まる。長い雪渓にガスが現れては消えてゆく。アイゼン

なしで慎重に登り、大きなケルンを積んだ乗鞍岳に到着。下ると白馬大池と山荘が見えてくる。

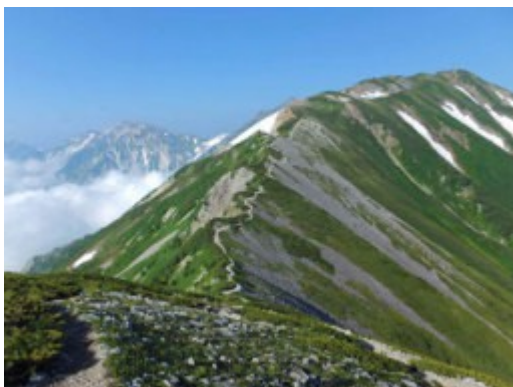
チングルマ、ハクサンコザクラ、ハクサンイチゲが大池と、山荘の周辺に群生している。設営テントの赤、青、黄色の彩と雪田とのコントラストが美しい。

30日 快晴 青空一杯の景色を見ながら出発。NHKのテレビドラマ「坂の上の雲」に使われた小蓮華山への稜線の景色が飛び込んできく。“すばらしい”。稜線を登ってお花畑を楽しみながら小蓮華山に到着。下って三国境ではコマクサの群落が見れる。ここから本格的な登りとなる。

一時ガスのかかった白馬岳が見れる。山頂に到着すると再びガスで、展望なし。少し下って白馬山荘で、生ビールなどで“乾杯”。散策すると5羽の子連れの雷鳥を見つけ感激。

31日 快晴 剣岳から槍ヶ岳、白山、富士山と八ヶ岳などの景色を見ながら出発。大雪渓を見下ろし、花々を楽しみ、砂礫の急登の後、杓子岳山頂に到着。下って登り返し白馬鑓ヶ岳に到着。白馬岳、杓子岳、歩いてきた縦走路の景色に感動。鑓温泉小屋に向かって下ると咲残っていたウルップソウを見つけ嬉しい。大出原分岐の下の大出原を慎重に下り、ハクサンコザクラ等の群生している大出原で昼食。この後、最も事故の多い、鎖の付いた水が流れている岩場を慎重に通過し、鑓温泉小屋に到着。標高2100mで温泉に浸かるのは格別である。

1日 快晴 ご来光を見て朝食。小屋から少し下った所でアイゼンを装着、雪渓の長い下りと上りを通過、振り返ると温泉小屋からの縦走路、雪渓、山々が青空の下で美しい。その後、雪渓を3箇所通過し、小日向コルでは白馬三山を一緒に見上げ、予定時刻より早く到着。雷、雪渓での落石、転倒もなく、大展望、お花畑、雷鳥との遭遇など、夏山を元気に安全に満悦できた事に感謝です。



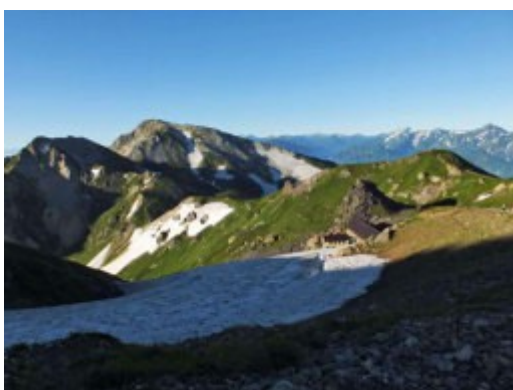
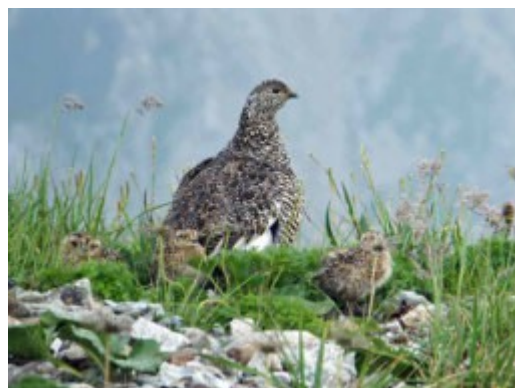
NHKのドラマ「坂の上の雲」に使った尾根道

イワツメグサ



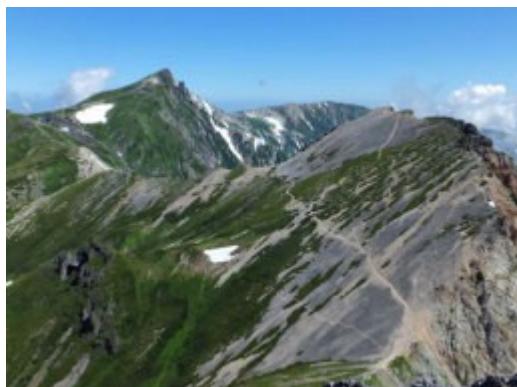
白馬岳頂上

雷鳥の親子



左から杓子岳、白馬鑓ヶ岳

チシマギキョウ、タカネツメグサ



白馬鑓ヶ岳から杓子岳(手前)、白馬岳(奥)

ハクサンコザクラ



鑓温泉小屋からのご来光

鑓温泉小屋からの雪渓



コースタイム

- 29日 母池自然園 10:50・・・乗鞍岳 15:20～35・・・白馬大池山荘 16:30（泊）
30日 大池山荘 6:20・・・小蓮華山 9:15～25・・・三国境 10:35～45・・・白馬岳 12:07～13:00・・・白馬山荘 13:30（泊）
31日 白馬山荘 6:05・・・杓子岳 8:10～8:25・・・白馬鑓ヶ岳 10:10～10:30・・・大出原分岐 11:05～15 大出原 12:05・・・
白馬鑓温泉小屋 15:10（泊）
1日 温泉小屋 6:20・・・小日向のコル 9:40～45・・・猿倉 12:40～13:35＝バス＝白馬駅

参加者

○小島、栗田、岩方、大川、和久田、◎竹尾 計6名

第1991回報告

立山・大日三山 と 称名滝

実施日 8月12日(日)～13日(月)

係・記録 井上 忠秋

報告

12日 快晴午後一時霧 悪天候極まりない予報に脅かされたのだが、集合地である立山室堂は、幸いなことに雲一つない快晴に恵まれた。立山三山、別山、浄土山、剣岳、これから向う奥大日岳方面に囲まれた室堂は多くの観光客で賑わっていた。私たちは、地獄谷、雷鳥沢を経て、室堂乗越から奥大日岳に歩を進めた。こちらのコースをたどる登山者は少ない。地獄谷は有毒ガスの発生が続きいまだ立ち入り禁止である。室堂から奥大日岳の間は高山植物が百花繚乱の状態を呈していた。花の百名山とうたわれた価値あるコースと納得ができた。急登は無く順調に高度を稼いだ。午後にはガスが出て眺望がない中での歩行となったが、折々にガスが切れ遠くまで景観が開けた。黒部越しには鹿島槍を始め後立山連峰を望むことができた。大日小屋を前にして、振り返ると剣岳の早月尾根が十二単衣を纏った如く裾をひろげ神々しさを感じた。剣の全容は圧巻であった。

13日 曇り一時小雨 日の出前に大日岳を往復したとき雷鳥と遭遇したが、雨の前触れかと嫌な予感が

した。大日岳ではちいさな祠に大日如来と釈迦如来が祀られていた。この山が信仰の山であることを示していた。今日は称名滝まで下る一方である。小屋番の忠告は、「長い下りだから調子に乗ってトントン下ると、牛の首あたりで膝が笑って歩けなくなる。ユックリ行け」であった。

所々に梯子やザイルに頼る箇所もあったが、危険な箇所はなく、予定の時間で称名滝に到着。この名瀑を見ることがこの山行の目玉でもあり、落差350メートル4段の滝の豪快な水音と水量は印象深いものであった。 井上の独り言 いい山行だったなあ〜。



花の大日

大日岳から劔岳



劔岳の夕映え

コースタイム

8月12日 室堂9:50－雷鳥沢10:20・・・室堂乗越11:00・・・奥大日岳 14:00・・・中大日岳 16:30・・・大日小屋17:00（泊）

8月13日 4:30 大日岳往復 大日小屋6:30・・・大日平小屋9:0・・・牛の首11:30・・・称名滝12:15・・・同バス停13:10
・・・富山駅解散

参加者

岩方、柴田、芹沢、福田、◎井上（忠）

計5名

第1992回報告

高層湿原・鬼怒沼湿原（2050m）

実施日 8月10日（金）晴、～11（土）晴のち曇

係・記録 竹尾亮三

報告

10日 バス停で、バスと同一料金にするとの誘いで、ジャンボに乗り女夫淵に1時早く到着。新しい遊歩道入口を見つけ、鉄製の急階段から上り山道に入る。下って立派な鉄製の吊橋を渡り鬼怒川の左岸の遊歩道を緩やかに登っていく。鬼怒川の川原が広いのには驚く。川岸から少し離れた所を歩き、八丁ノ湯に到着。日差しを避けて休憩。加仁湯を経て日光沢温泉に到着。電気あり、内風呂、露天

風呂2箇所、洋式水洗トイレ、食事の良さに、全員が満足。25年以上前に歩いた方々が、道がう、電気がきてなかった、食事が悪かったなどの疑問には、帰りの鬼怒川温泉駅の近くのラーメン屋の主人が答えてくれる。

11日 日差しを原生林が遮る中、急坂を登るとオロオソロシの滝展望台に到着。上下に二つの滝が、緑豊かな山肌を落ちている。急登が続き、やっと緩斜面の山道を歩き湿原の南端に到着。キンコウカ群生、タテヤマリンドウなどが咲いている。木道を歩き北端まで行き引返す。曇ってきたが、男体山、真名子山、燧ヶ岳などが遠望できる。地塘には山や木々が映って美しい。下山は往路の急坂を慎重に降り日光沢温泉を経由して女夫淵に戻る。鬼怒川が氾濫する度に川沿の道は何度も消失し、今の道が作られたとの事。ランプの温泉小屋3箇所は20年前にスーパー林道ができ、電気が通じ、物資が運ばれる。川の氾濫により山道は自然の力を考慮し、宿は人の要望に応じて変化している事を痛感する。変化は次の発展の基です。



オロオソロシの滝



地塘



コースタイム

10 日 鬼怒川温泉駅 9:45=女夫淵 10:45～11:1・・・八丁の湯 13:40～14:05・・・日光沢温泉 14:40（泊）
11 日 日光沢温泉 6:25・・・オロオソロシの滝展望台 7:30～7:40・・・鬼怒沼湿原 南端 9:45--北端 10:05
・・・南端 10:45・・・オロオソロシの滝展望台 12:15～25・・・日光沢温泉 13:05～15・・・女夫淵 15:00
～バス 15:35==鬼怒川温泉駅 17:10

参加者

有山、今井、大野、依田、和久田、◎竹尾

計 6 名

第 1994 回報告

御 巢 鷹 山 （1775m）

実施日 8 月 25 日（土） 晴れ

係・記録 鈴木国之

報 告

天気恵まれ稜線まで登ると金峰・甲斐駒・北岳・南ア南部の山々が見える。反対側の河口湖は張り出した尾根に邪魔されて見えないが、山中湖・富士山・精進湖までが展開する。御巢鷹山の下りに入ると目的の「レンゲショウマ」が咲いていて、時々ヒヨドリバナの密を吸いに「アサギマダラ」の飛んでいる姿があった。大幡八丁峠までは幾つかのピークを登ったり下ったりした尾根が続く。「レンゲショウマ」群落も途絶えたり又出て来たりして飽きさせない。三つ峠までの混雑からは想像出来ない、静かな尾根歩きでした。



アサギリマダラ



レンゲショウマ

コースタイム

河口湖駅 9:40＝三つ峠口 10:00・・・10:20 稜線 11:30・・・11:35 開運山・・・11:55 御巢鷹山 12:10・・・昼食
・・・大幡八丁峠 14:45～14:50・・・御坂三つ峠口 17:20～17:30＝河口湖 17:50

参加者

◎鈴木国之、早苗 2名

第 1995 回報告

北 岳 (3,193m)

実施日 8月24日(金)～8月26日(日)快晴

係・記録 竹尾亮三

報 告

24日 甲府駅からのバスの女性車掌さんが観光バスガイド並みに山名、道路の歴史などを説明してくれる。

広河原山荘到着後は散策する組、小屋の前のイス付テーブルで歓談する組、任意でした。

4時15分頃、青空を見上げると、真っ白い、薄い雲に、変形帯状の美しい七色の虹があり、
歓声があがる。

25日 山小屋から25分で、白根御池小屋分岐に到着。道標を確認し、二俣に向かう。

沢から離れ、急登に入り、少し変と思いながらも、北岳への道標や交差する登降の人々に安堵して
進むと白根御池小屋に到着。コースを間違えた事に気付く。最初の道標の直後に道標のない分岐が
あったのを見過ごしたミスに大反省。白根御池小屋前でゆっくり休憩し、お花を楽しみながら平坦
な山道を通り予定の二俣へ到着。広河原山荘が空いていた事で、出発が早く、二俣への到着は計画

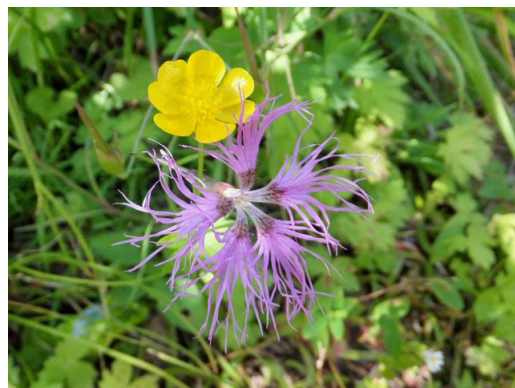
書より15分早い。八本歯のコルへの大雪渓を後に肩ノ小屋へ向かう。ハクサンフウロ、北岳トリカブトなど夏と秋の花の道連れが急登を忘れさせてくれる。3015mの肩の小屋には予定時刻に到着。夕日が沈む直前に真赤に染まる薄い雲が幻想的である。

26日 朝焼けに浮かぶ富士山を始め、甲斐駒、仙丈岳などの展望を満悦し、軽装備で北岳に向かう。トウヤクリンドウ、コバノコゴメグサなどの岩場に咲く花を楽しみながら山頂に到着。真青の空の下、八ヶ岳連峰、鳳凰三山などを含め感動の大パノラマである。南端からは北岳山荘、間ノ岳、農鳥岳への尾根道が展開し、塩見岳も遠望する。再び肩ノ小屋を経由して二俣へ。マルバダケブキやクガイソウの蜜を吸うクジャクチョウの姿を何度も見ながら二俣に到着。大樺沢の山道沿いでは高山草原に咲くミソガワソウやミヤマハナシノブの群生が続く。広河原山荘に立ち寄り、バス停にほぼ予定時刻に到着。日本第二の高峰へ、中高年がんばりました。この時期にたくさんの高山植物に出会い、大展望を楽しめたことに感謝、感激です。



センジュガンビ

ミヤマキンビデ と タカネナデヒコ





コバニコゴメグサ (北岳山頂付近)



イブキトラノオ (後方は鳳凰三山)

コースタイム

24 日 甲府駅 12:00 バス＝＝広河原 14:00～10・・・広河原山荘 14:15 (泊)
 25 日 広河原山荘 5:50・・・白根御池小屋分岐 6:15～20・・・白根御池小屋 9:00～20・・・二俣 9:50～10:05・・・
 肩ノ小屋 14:25 (泊)
 26 日 肩ノ小屋 5:45・・・北岳 6:30～7:00・・・肩ノ小屋 7:40～8:10・・・二俣 10:40～11:25・・・広河原山荘
 14:15～30
 ...広河原バス停 14:40～バス 15:00 甲府駅 16:55

参加者

○宮本、○板垣、足立、栗田、渡部、岩方、大川、佐々木、谷田部、◎竹尾 計 10 名

第 1996 回報告

櫛形山 (2052m)

実施日 9 月 8 日 (土) 曇時々晴れ

係・記録 竹尾亮三

報 告

登山口からマルバダケブキを見ながら快適な山道を登っていく、三角点のピークを降り、上り返すと櫛形山に到着。昼食後マルバダケブキの大群落、見事なダケカンバの大木やカラマツに寄生するサルオガセを

随所に見ながら、裸山の直下に到着。かつてのアヤメの群落地であろう。鹿の食害を防ぐ為の金網がある。

タムラソウ、ハクサンシャジン、コウリンカ、カワラナデシコなどの花を楽しみながら裸山に到着。

栄枯盛衰のアヤメ平を経由して北尾根登山道を降り、展望台に到着。富士山が頭を雲の上に出している。

慎重に急坂を降り、予定時刻のタクシーに乗込む。駅前で全員が山梨名物の「ほうとう」で乾杯。

やっと実現した楕形山でした。



ハクサンシャジン



ダケカンバの大木 と マルバタケブキ

コースタイム

甲府駅 8:50＝taxi＝池ノ茶屋登山口 10:15～30・・・楕形山 11:35～昼食 12:25・・・
裸山（2002m） 13:05～20・・・アヤメ平 13:45～14:00・・・展望台 15:20～30・・・北尾根登山口 16:20～30
＝甲府駅 17:25

参加者

○小澤、今井、笈川、大溝、小笠原、川野、斉藤（美）、清水、依田、
和久田、渡部、◎竹尾 計12名

第1997回報告 (本部合同) 陣馬山～堂所山～夕焼け小焼け の里

実施日 9月15日(土) 晴れ

係・記録 和智 邦久

報 告

大人数での本部合同山行となり陣馬高原下を出発。和田峠を通らない山道を登って陣馬山へ。頂上で何人かがおいしそうにかき氷を食べていた。堂所山で昼食。ここから裏高尾の静かな尾根歩きが続き、黒ドッケの分岐より夕焼け小焼けの里へ、大人数でしたが全員無事に下山し解散しました。バス停でハーモニカの伴奏に合わせ「赤トンボ(夕焼け小焼けの……)」の合唱し山行を締めくくりました。



陣馬山(松本さんのスケッチ)





コースタイム

陣馬高原下 8:25・・・10:11 陣馬山 10:25・・・10:56 奈良子峠・・・11:05 明王峠・・・11:20 底沢峠・・・11:39 堂所山 12:15
・・・12:52 三本松山・・・14:00 黒ドッケ・・・15:08 夕やけ小やけふれあいの里 15:32==高尾駅

参加者

○竹尾、○足立、○小澤、○三浦、○鈴木、服部、長谷川、岩方、和久田、大川、鈴木、大野、今泉、松本、
上田、◎和智 支部 16名 + 本部会員 16名 合計 32名

第 1998 回報告

根名草山 ・ 温泉ヶ岳

実施日 9月17日(月)晴～9月18日(火)晴のち曇

係・記録 池田邦雄

報 告

17日 台風16号の影響が心配されたが、温泉郷泊まり覚悟で出発。快晴の中鬼怒川駅では白タクに誘われたが無視し、10:15 発市営バスで終着女夫湫へ。鬼怒川源流沿の樹林の道を遡り14:40 日光沢温泉着。
日光沢温泉手前の林道が6月の豪雨による対岸の大崩壊で潰れ、急拵えの迂回路が作られていた。
いつ再発あってもおかしくない地形下にある谷間の温泉宿の厳しさが窺えた。

18日 本日の予報は曇り、時に俄か雨とのこと。宿先からいきなり400mの急登、登山者が少いこのルートは、シラビソの濃い樹林帯下、青苔岩石が多く、新旧大小の倒木が放置され、潜ったり跨いだりの連続だった。手白沢温泉からの合流点で稜線に出る。本日のルートは山頂を除いて大部分は高木の樹

林帯の中である。本日の稜線の平均気温は 17℃～18℃で終日爽やかであった。根名草山へ向けて高低差の少ない稜線を歩むと、時折樹間から燧岳と枯れ草色の尾瀬ヶ原や鈍い光の菅沼が望めた。

根名草山で記念写真を撮り温泉ヶ岳へ。日光側からは時折涼風とガスが吹き付け、時に小雨がぱらつくこともあったが頭上は概ね晴天であった。場所を移し新築された念仏平避難小屋を通過後、金精峠へ向かう稜線から少し外れた標高差約 80 m の温泉ヶ岳頂上を往復した。この先から日光側の刈込湖や湯の湖、戦場ヶ原がガスの切れ間に眺められるようになる。だらだら下りをくり返し金精峠へ。

金精峠からは急峻な階段を一気に下って、タクシーの待つ登山口に到着、湯元温泉で汗を流して無事山行を終了することができた。本日他の登山者に逢うことはなかった。昭文社地図 2000 年版では約 7 時間の行程だが 9 時間かけてゆっくり歩いた。

コースタイム

17 日 鬼怒川温泉駅 10:15＝11:50 女夫淵 12:00・・・14:40 日光沢温泉（泊）
18 日 日光沢温泉 6:30・・・8:10 手白沢分岐 8:20・・・10:40 根名草山 11:20・・・12:03 念仏平小屋 12:20
・・・13:10 温泉ヶ岳往復 113:50・・・14:48 金精峠 14:55・・・15:35 金精峠登山口 15:40＝
湯元経由東武日光駅 18:41＝20:35 東武浅草駅解散

参加者

今泉、岩方、大溝、柴田、◎池田 計 5 名

第 1999 回報告

針ノ木岳（2821m）・蓮華岳（2799 m）

実施日 9 月 21 日（金）～ 23 日（日）

係・小澤勝太郎 記録・栗田克行

報 告

9/21 信濃大町駅そばのニュー竹乃屋旅館に前泊する。

9/22 5 時 30 分発のバスで扇沢に向かうが、途中でバスがエアー不足で運転不能になり立ち往生。心配したが 30 分後に代わりのバスに乗り換えて予定より 20 分遅れで扇沢から出発する。雲はあるものの快適な天気の下で順調に歩を進める。日本第 3 位の針ノ木雪渓を登ることを計画していたが、この夏の異常な暑さのせいと時期が少し遅かったため、雪渓は大幅に縮小・崩落していて高巻き道を使うことになった。くさり場がいくつかあったが、それほど危険な個所もなく順調に進む。最後のジグザグ道を登るとそこ

に針ノ木小屋があり、予定よりも1時間早く到着。小屋で昼食を食べた後、空身で針ノ木岳に向かう。

振り返ると蓮華岳がきれいに見え、ななめ前にはスバリ岳を見ながら進む。山頂で劔岳、立山、後立山連峰や裏銀座の素晴らしい景色を満喫したあと小屋に戻る。その後は小屋前のベンチできれいな景色を見ながらビールなどを飲んで楽しい時を過ごした。次第に雲が多くなり遠くの山並みは見えなくなったが、槍ヶ岳の山頂だけがぼつかりと見えることが多く、不思議な気がした。

9/23 雨のため、希望者3人のみで蓮華岳に向かった。幸いにも雨風は強くならず助かった。蓮華岳はコマクサの群生地で有名どころだがほとんど枯れていて残念、と思ったら2輪だけ可憐に咲いているのを発見。小屋に戻り下山したが、健脚揃いのためか下りも順調で1時間早く扇沢に到着。信濃大町に向かう途中、大町温泉郷で途中下車して薬師の湯で入浴・昼食を取り、松本からは「はまかいじ」に乗り横浜直行で帰浜した。2日目は雨だったものの景色を満喫できた楽しい山行でした。

コースタイム

9/21 信濃大町 ニュー竹乃屋旅館（泊）

9/22 信濃大町発:5:30==扇沢6:30・・・大沢小屋7:45・・・針ノ木峠（小屋）10:45・・・針ノ木岳12:20/45・・・

針ノ木小屋13:25 9/23 針ノ木小屋6:10・・・蓮華岳7:00/10・・・針ノ木小屋7:50/8:1・・・大沢小屋10:00

・・・扇沢11:05

参加者

◎小澤、○和智、柴田、板垣、小笠原、石井（誠）、栗田 計7名

第2000回 9月22日(土) 鎌倉・源氏山～銭洗い弁天 熊谷 4名 ……資料無し

第2001回報告 街道を歩く（日光街道その4） 杉戸宿～栗橋宿

実施日 9月29日(土)晴れ

係・芹沢隆久 記録・和智邦久

報告

暑さの中、街道歩き「杉戸宿」から再開する。杉戸は利根川の渡しがあったことから、杉津、杉渡の名が生じ、杉門と書いている。この杉の門が杉戸であった。4号線をひたすら歩き茨島一里塚(十一里目)を過ぎ、幸手宿に入る。まだ4号線の暑いなかを歩く歩く、行幸橋を渡ると4号線と分かれやっとな静かな街道歩始まったよう

でほっ一息。周りは畑で人家の庭には、いちじゅく、きゅうい、柿等の果物が。小右衛門一里塚、会津稻荷
(会津侯の使者である会津藩主が書状を無くし茶屋で切腹しかけると、狐の化身が現れこの難を救った)
炮烙地蔵(関所破りで処刑されたものを弔う)を過ぎ栗橋宿に到着した。今日 1 日暑い中をみんなよく歩いた、
お疲れさまでした。 (日本橋から栗橋宿まで 56.6km)

コースタイム

杉戸宿 9:15・・・茨島一里塚 10:21・・・神宮寺 11:07・・・11:20 神明神社 11:55・・・幸手宿本陣(知久家
跡) 12:05
・・・聖福寺・・・行幸橋・・・追分 13:00・・・小右衛門一里塚 13:4・・・会津稻荷 14:30・・・炮烙地蔵 14:40・・・
栗橋宿 14:50・・・栗橋駅

参加者

◎芹沢 ○足立 戸野部 岩方 大野 和智 計 6 名

[本文へスキップ](#)

第 2004 回報告

日川尾根～源治郎岳 (1477m)

実施日 10 月 5 日(金) 晴れ

係・記録 和智邦久

報 告

塩山駅から上日川峠までタクシー。ここからとど松が続く尾根道を大菩薩湖を見ながら静かな静かな山道が続く。中日川峠,下日川峠までは散歩でもしているような尾根道で源治郎岳への分岐から山らしい道になり、山頂は木々が切り払われ遠くに、甲武信ヶ岳の雄姿が見える。嵯峨塩鉱泉に下り、天目山温泉で入浴し疲れをいやした。今回の行程で登山者に 1 人も会わなかった

コースタイム

塩山駅 9:00＝タシ＝上日川峠 9:35/9:45・・・中日川峠 10:22・・・下日川峠 11:45/12:20・・・分岐 12:50・・・
源治郎岳
13:15/13:35・・・嵯峨塩鉱泉 15:00・・・天目山温泉 15:55/17:12＝バス＝甲斐大和駅 17:30 着

参加者

岩方 柴田 ◎和智 計 3 名

第 2002 回報告 丹沢長大縦走シリーズ（白石峠～加入道山・大室山～犬越路）

実施日 10月6日(土)晴れ

係・斉藤郁夫 記録・古屋喜代子

報 告

用木沢出合までタクシー利用のおかげで時間節約でき、景色を楽しみながら歩けた。堰堤の多い白石沢を何度か渡り返した後、沢から離れてジグザグ登る。白石大滝標識の足元にホトギス一輪。大滝から30分の水場の水は冷たくて甘露だった。石の多い乾いた沢で1度だけヒルを見かけた。白石峠ベンチで正面に大室山を望みながら昼食。加入道山あたりからトリカブトの花が多くなってきた。ブナ林と草原が秋の日差しを受けて美しく尾根道は気持ちよい。破風口まで下って登り返し急登の後木道を経て大室山・犬越路分岐に到着。ザックをデポして大室山山頂まで往復した。トリカブトがきれい。キノコに覆われた大木を何本か見かけた。大室山からの下り、東西の山並みがきれいだった。下りは急坂、笹藪、ゴロゴロ石、川原と変化に富み長かった。ひたすら歩いてバス停に着いた時はほっとした。

コースタイム

谷峨駅 7:10＝タクシー＝用木沢出合 7:35～45…白石峠 10:30～50…加入道山 11:20…大室山 11:15～30
…犬越路 15:05～15 用木沢出合 16:35…西丹沢自然教室 16:55～17:05＝バス＝谷峨駅 17:55

参加者

◎齋藤、今泉、古屋 計 3 名

第 2005 回報告 五色沼(800m) ・ 磐梯山 (1819m)

実施日 10月7日(土)曇時々晴れ～8(日)快晴

係・記録 竹尾亮三

報 告

7日 五色沼入口のビジターセンターでパンフレットを入手し、五色沼自然探勝路に入る。10数の大小の沼を通過しながら、標高 800m では、葉は色付いていないが、真っ赤なツタウルシが所々にアクセントを付け、緑とのコントラストを楽しませてくれる。コバルトブルーの沼の岸辺の葦や木々が水面に映り素晴らしい。

裏磐梯高原駅より、バスで五色沼入口まで戻り、徒歩 5 分で国民宿舎に到着。和室の 2 人部屋 5 室と 3 人部屋

2室で、食事もおいしく、翌朝の登山口までの車もサービスで、格安の良い宿でした。宿のご主人から「大勢でご利用頂きありがとうございます」といわれた時には、福島へのささやかな支援山行を思い出しました。参加の皆さん、有難うございました。

8日 部屋から青空一杯にそびえる磐梯山と櫛ヶ峰を見上げ、車で裏磐梯登山に到着。桧原湖をバックにゲレンデを登り、旧噴火口の銅沼に到着すると噴煙が2箇所上がっている。爆裂火口壁の上部の尾根伝いを登り、緩斜面に出て、展望のよい草原に出ると、頭上に紅葉した磐梯山が姿を現す。東側には独特な雰囲気と爆裂跡を持つ櫛ヶ峰を望む。斜面をひと登りすると弘法清水に到着。冷たい湧水を飲み、急登をがんばり山頂に到着。360度の展望は抜群。南の眼下には広大な猪苗代湖が。弘法清水に戻り、表磐梯へのコースに入る。沼ノ平を経て赤埴山に到着。ここから見る磐梯山も素晴らしい。猪苗代湖を見下ろしながら、スキの群生しているゲレンデを降り、20分遅らせたタクシーが待つ下山口に到着。裏と表を結ぶ一番のロングコースを、変化のある展望と紅葉をも楽しめた山行に感謝です。



五色沼のツタウルシ



銅沼の噴煙



草原からの櫛ヶ峰



赤埴山からの磐梯山

コースタイム

7日：猪苗代駅 バス 10:40＝＝五色沼入口 11:15～30・・・五色沼自然探勝路・・・裏磐梯高原駅 13:25～14:20

バス＝五色沼入口 14:30---裏磐梯国民宿舎 14:40（泊）

8日：宿舎 7:15 宿の車 7:15＝＝裏磐梯スキー場登山口 7:25～35・・・銅沼 8:25～35・・・弘法清水小屋 10:50～11:05

・・・磐梯山 11:45～12:40・・・赤埴山 14:45～15:00・・・天の庭 15:40～50・・・猪苗代登山口 16:45～50
taxi＝＝猪苗代駅 17:05～42＝＝郡山 18:13～30＝＝東京

参加者

○宮本、☆小笠原、☆栗田、板垣、今井、岩方、大川、大野、大溝、加藤、、斉藤（美）、佐々木、清水、
服部、和久田、◎竹尾 計 16 名（☆班長）

第 2007 回報告

戸 倉 三 山 (842 m)

実施日 10 月 13 日(土) 晴れ

係・記録 宮本省治

報 告

空は快晴、最高の山行日和に、山の障害物コース戸倉三山に挑む。元郷をスタートして臼杵山までは 500 m の登り、そして臼杵山からは、これでもかと思いきやコブが続く。しかし幸いかな、天気にも恵まれ、しっ

かりと歩くことができた。大変満足できる山行でありました。

コースタイム

元郷 8:20…臼杵山 10:00…市道山 11:20…刈寄山分岐 13:40…今熊山 14:45…
登山口バス停 15:30 休憩～10分*6回 計 60分

参加者

◎宮本、長谷川、石井（純） 計 3名

第 2008 回報告

甲斐駒ヶ岳(2967 m)

実施日 10月13日(土)～10月14日(日)

係・小澤勝太郎 記録・福田徳郎

報 告

13日 快晴、午前6時過ぎ、横浜駅から東神奈川、八王子、甲府と乗り継ぎ、バス2時間で広河原、そこから市営

バスで30分、お昼過ぎには標高2030^{メートル}の北沢峠に着いた。今夜は仙水小屋泊だが、有志は往復約2時間の仙

水峠まで足慣らし。峠には摩利支天の威容が目前に迫ってくる。山小屋の主人から「夕食が午後4時で朝食

は午前3時半」と聞かされ、山小屋初心者はぎょっとした。外気温4度、夜空に満天の星、オリオンが真上

で光っている。

14日 快晴 午前3時起床、4時30分出発、仙水峠でご来光、駒津峰までの登りは甲斐駒の雄姿は見えないが峰上

にたどり着くと正面に傲然と聳える甲斐駒の姿は故深田久弥氏の文章につきる。

「日本アルプスで一番代表的なピラミッドは、と問われたら私は真っ先にこの甲斐駒ヶ岳をあげよう」

「日本アルプスで一番綺麗な頂上は、と聞かれても、やはり私は甲斐駒ヶ岳をあげよう」そして

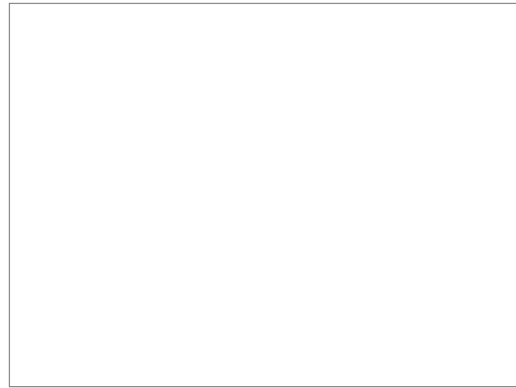
「甲斐駒ヶ岳は名峰である。もし日本の十名山を選べと言われたとしても、私はこの山を落とさないだろう」

午前9時過ぎ、12名が北風の吹きすさぶ山頂に立った。20分後、記念撮影を終え、先発組は早々と山頂をあと

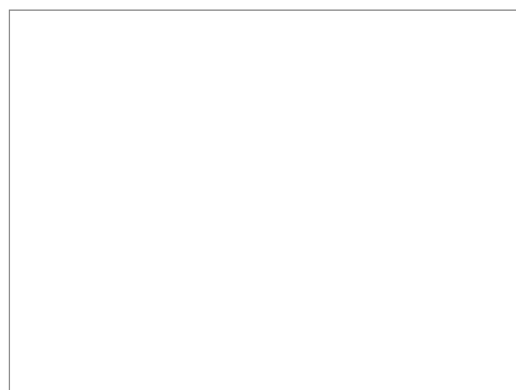
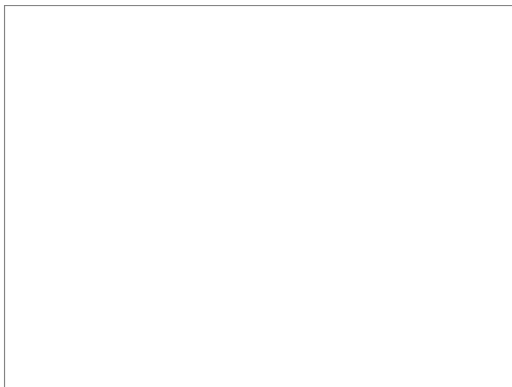
にした。残ったリーダーを含む4名がより長い時間、この日本屈指の名山を楽しんだのだった。



仙水峠から魔利支天(右)、甲斐駒ヶ岳(左)



南アルプスの上に富士山



駒津峰から甲斐駒ヶ岳

コースタイム

10/13 甲府駅 9:00 == 広河原 10:56 == 北沢峠 12:50・・・仙水小屋 13:40・・・仙水峠往復

14:20／15:30 (夕食 16:00)

10/14 午前3時起床、出発 4:30・・・仙水峠 5:10・・・駒津峰 7:10・・・巻き道 8:10・・・山頂 9:10分・・・下山は2班に分れる

先発 9:40、後発は 10:00(記録は後発組による) 駒津峰 11:50・・・駒津峰発 12:15・・・双児山 13:00・・・

北沢峠 14:30/15:10＝＝広河原 16:00＝＝甲府駅 18:00＝＝かいじ 18:53＝＝八王子 20:03＝横浜
駅 21:05
桜山休憩所 12:20/13:05・・・乳頭山 14:15/30・・・田浦梅林 15:15/30・・・田浦駅 15:50

参加者

◎小澤、○石井誠、和智、佐藤、竹尾、柴田、板垣、大川、谷田部、今泉、古屋、福田 計12名

第2011回報告

鶴ヶ鳥屋山

実施日 12月1日(土) 薄曇り

係・小澤勝太郎 記録・大溝陽子

報告

薄曇りの中を、笹子駅から歩き始める。途中、季節外れのハウズキが7~8個小さな真っ赤な実をつけていました。林道終点から、数か所徒渉。経験浅い私は滑って転ぶよりはと靴を濡らしながら渡る。急登が続く、曇天でも汗をかくほど。やっと尾根に出ると風が冷たく、休憩も程々に歩き始め頂上に。昼食の中頃に厚い雲から陽がのぼり、皆、歓声。下りは落ち葉の厚い絨毯。下りの苦手な私は、落ち葉にまみれること度々。落ち葉のクッションで怪我もなく、無事下山。静かな冬枯れの山行でした。

コースタイム

笹子駅 8:40・・・林道終点 9:05・・・送電線鉄塔 10:00・・・尾根道 10:50・・・11:50 鶴ヶ鳥屋山 12:20・・・林道 13:19・・・13:50 分岐/近ヶ坂橋へ・・・14:30 林道・・・15:25 初狩駅（解散）

参加者

◎小澤、○宮本、長谷川、板垣、今泉、栗田、大溝 計7名

第2012回報告

荒船山（行塚山）

実施日 10月27日(土) 雨のち曇り

係・記録 竹尾亮三

報告

山の天気予報が外れ、登山口に着くと強い雨と、厚い雲、ガスなどを総合判断して残念ながら登山を中止。直ちに、下仁田の特産物こんにゃくを食べる事、来る途中の看板などで知った、世界遺産候補の富岡製糸場を見学する事に変更する。下界では雨は止み、Taxi が案内してくれた休憩所で、こんにゃく田楽などを食べる。上州富岡で途中下車し、明治5年設立の富岡製糸場で施設の案内・説明を受ける。風穴の冷風を利用して、年1回だった養蚕を複数回可能にした、絹産業の大量生産の技術を知り、実物の繭から糸を紡ぐのも見聞する。世界遺産候補のせいか、大勢の見学者が来ていた。山は登れなかったが、予想外の体験が出来た事に感謝です。

コースタイム

下仁田 9:20 =タツ=内山峠 9:55~10:15=下仁田 10:50~12:30=上州富岡 12:53 …富岡製糸場 13:10~14:30
…上州富岡駅 15:30~48==高崎 16:24~17:13 …割石峠通過 11:40…呼子岳 11:56…越前岳 13:00
/13:15
…山神社 14:55…バス停==御殿場 16:15 解散

参加者

○井上 正、大溝、大川、佐々木、依田、和久田、◎竹尾 計 7 名

第 2013 回報告

街道を歩く (日光街道・その 5)

実施日 10 月 27 日(土) 曇り時々晴れ
報 告

係・芹沢隆久 記録・和智邦久

少し涼しい中、栗橋駅より栗橋宿の出発点に歩く。1616 年(元和 2 年)、宿駅として認められ栗橋宿となる。本陣跡、栗橋関所跡(日光街道唯一の関所)を過ぎると利根川の長い橋を渡る。「中田宿」に入り、鶴峯八幡宮(新田義貞が北条高時追討の折に祈念して勝利を得たという)、光了寺(静御前ゆかりの寺)、約 1 km 歩き JR の踏切を渡ると道は整備され、歩道も片側であるがきれいになっている。「古河宿」は、古我、あるいは許我と書き、奥州方面への重要な地点となっていた。古河歴史博物館を見学(鷹見泉石の関係資料 3153 点は、国の重要文化財に指定)し、古河の本陣跡を過ぎると旧街道の歩道はきれいに整備れ、野木神社、塩滑地蔵を過ぎ野木宿に入る。野木本陣跡を過ぎると、したすら今回のゴール間々田宿をめざして歩く八幡神社(将軍日光参拝の際の御小休所)を過ぎてやっと間々田宿へゴールした。

(日本橋から間々田宿まで 72.4km)

コースタイム

栗橋駅 8:55・・・静御前の墓・・・栗橋宿・・・9:20 池田本陣跡・・・9:22 関所跡・・・利根川大橋・・・9:55 中田宿跡
・・・鶴峯八幡神社・・・10:07 光了寺・・・11:25 一里塚跡（古河第二高校校内）・・・古河宿・・・12:40 古河歴史
博
13:15・・・13:53 古河宿本陣跡・・・14:35 野木宿本陣跡・・・野木神社・・・14:40 野木一里塚跡・・・15:35
八幡神社・・・法音寺・・・16:23 間々田宿・・・16:30 間々田駅・・・上州富岡駅 15:30～48＝高崎 16:24～
17:13

参加者

◎芹沢 ○青柳 岩方 大野 木村 和智 計6名

第2016回報告

相模川の古代遺跡を歩く

実施日 11月2日(金) 晴れ
報 告

係・記録 祖父川精治

2万年前の氷期、旧石器時代の相模川では鮭が遡上しマンモスやナウマンゾウ、オオツノシカが生息していた。次に5千年前の縄文時代の遺跡群を訪ね歩きました。さがみ縦貫道工事関連によって次々と発掘発見されたものです。独特な栽培方法である「新磯のザル菊」凡そ1000株が最盛期。終日丹沢山地を望みながらハイキングを楽しみ、遥かに奥多摩の名峰大岳山が遠望できて実に幸せでした。

コースタイム

J R 原当麻駅 10:15・・・16580 歩、11.5 キロ・・・J R 相武台下駅 15:40

参加者

今泉、関、◎祖父川 計3名

第2017回報告

御坂山

実施日 11月3日(土) 晴れ

係・記録 竹尾亮三

報 告

天下茶屋からの富士山は雲の中。日差しがこぼれる、見頃の紅葉樹林の急坂を登る。
真っ赤なカエデ、黄葉のブナ林などを見ながら稜線に到着。再び稜線の紅葉樹林を眺めながら進み山頂に到着。落ち葉の緩斜面に座り昼食。山頂を少し降ると冠雪の富士山が美しい姿を見せている。カラマツ林の黄

葉も陽にあたって素晴らしい。御坂峠に到着すると、マユミの真赤な実が青空をバックに可愛い。旧鎌倉往還に入り、周囲一面、陽に輝く黄葉の樹林が続く山道を、落ち葉を踏みしめて降る。赤や緑のコントラストも現れ感動。下山では誰にも会わず、行者平を経由して藤野木バス停に到着。紅葉の快適な縦走コースを楽しんだ山行でした。



ブナ林

輝く黄葉と落ち葉も山道



真っ赤なカエデ

真っ赤な葉を見る2人



コースタイム

河口湖駅バス 9:40＝天下茶屋 10:25／40・・・稜線分岐 11:15・・・御坂山 11:55／12:45・・・旧御坂峠 13:40／50
・・・行者平 14:50・・・藤野木バス停 15:40／16:24＝河口湖駅 17:10／41＝大月＝八王子 19:24

参加者

○小笠原、岩方、及川、大野、大溝、川野、服部、依田、◎竹尾 計9名

第2018回報告

ウトウの頭

実施日 11月8日(木) 晴れ

係・記録 鈴木国之

報告

秋の好天気恵まれたなか一石神社から樹林の中を一石山まで。大分気温も低いはずなのに急登なので、たくさん汗をかく。傾斜が緩やかになり落ち葉の敷き詰めた道を歩きミズナラの巨木に到達。巨木の周りにはウッドサークルで囲まれていて神秘的な雰囲気を出しています。金袋山、すず坂丸と小さな突起を越えウトウの頭まで。日の光に紅葉が照らされた林の中を歩く静かな尾根歩きでした。下山で2度ほどルートを見失いましたが、テープが巻いてある木の所まで戻り、テープを忠実にたどり無事林道へ。



ミズナラの巨木



コースタイム

奥多摩駅 8:10(バス) 8:40 鍾乳洞 9:00・・・9:53 一石山 10:00・・・ミズナラの巨木 10:25・・・10:35 人形山
 ・・・10:58 金袋山 11:04・・・11:25 すず坂丸・・・12:12 ウトウの頭 13:00・・・13:50 すず坂丸・・・14:53 休憩
 15:00
 ・・・15:15 林道・・・16:00 鍾乳洞 16:20 バス

参加者

◎鈴木(2)、佐藤、上田、今泉、大溝

計 6 名

第 2022 回報告

秋山・二十六夜山

実施日 11月8日(木) 晴れ

係・宮本省治 記録・和智邦久

報 告

上野原駅からバスで浜沢まで入る。降りたときは小雨はやんでいた。少し歩くと急登が始まる。これが峠まで続くが皆んな涼しい顔で登っている。今日は支部の健脚ぞろいの面々なのでむりもない。二十六夜山頂上の周りの展望はない。下尾崎に下りまた寺下峠まで登り返す。梁川駅に向かって下る。道志の尾根と中央線沿線の尾根の間にある隠れた山だった。

コースタイム

上野原駅 8:28＝バス＝浜沢 9:17----二十六夜山 10:52～11:15---- 下尾崎 12:10----寺下峠 13:04----
 梁川町塩瀬 14:00----梁川駅 14:35 着

参加者

◎宮本 石井(純) 今泉 和智 計 4名

第 2023 回報告

北 高 尾 山 稜 (堂所山 731m)

実施日 11月18日(日) 快晴

係:小澤 勝太郎 記録:渡部

報 告

前日であった予定日を悪天候の為 18 日に変更されたのが大正解で終日絶好の日和となった。

8:20 八王子城址公園清冽な空気の中慎重にスタートした。八王子城天守閣跡、富士見台、杉沢の頭とルートは整備されているが人影は少ない、適度の休息により足取りは快調、孤塚峠より落葉樹が混じり黄・紅葉が見られ疲れた心身を楽しませる。黒ドッケからは紅葉のオンパレード。鉄塔傍の南斜面で昼食、閑場峠を過ぎ本日の再高点、堂所山到着遠望が利く。この先下りに気を入れ直し先を急ぐ。明王峠日差しはかなり斜めの感じ、ここからの下りはスリップに注意しながらで与瀬神社着、相模湖晩秋の夕景は見事。15:55 全員無事相模湖駅着。晩秋を満喫の楽しい山行でした。多謝。

コースタイム

J R 高尾発 7:55 = 8:10 八王子城址公園 8:20・・・八王子城天守閣跡 9:30・・・杉沢の頭 10:00・・・孤塚峠 11:00
・・・杉の丸 11:25・・・黒ドッケ 11:35・・・12:05 鉄塔 12:40・・・13:35 堂所山 13:50・・・明王峠 14:20・・・大明神山
15:20・・・与瀬神社 15:45・・・15:55 J R 相模湖駅

参加者

◎小澤、○斉藤、板垣、今泉、栗田、長谷川、古屋、宮本、渡部 計 9 名

第 2024 回報告

三浦アルプス (仙元山 118m～乳頭山 211m～田浦梅林)

実施日 11月18日(日) 晴

係・大川礼子 記録・竹尾亮三

報 告

晩秋の小春日和の中、三増バス停下車し、最初の目的の養鶏場へ行き売店にてソフトクリームを賞味する。相模湾に浮かぶ、たくさんのヨットや江ノ島の展望を楽しみながら登ると仙元山に到着。ここからがアルプスと言うだけあってアップダウンの繰り返しが続く。樹林や、笹林の中の山道は密林を歩く感じで、こぼれ陽が心地よい。観音塚を経由して見事な大木・どんぐり並木を通過し、昼食地に到着。再びアッ

プダウンの繰り返しで乳頭山に到着。皆さん笑顔で記念撮影。山道の終点は田浦梅林。その展望台からは遠くに筑波山が、眼下に東京、横浜の高層ビル群の大パノラマが素晴らしい。田浦駅近くのお好み焼屋に入り乾杯。



乳頭山にて

コースタイム

新逗子駅バス 9:02＝風早橋 9:10／15-仙元山 9:40／50・・・観音塚分岐 10:45／50・・・観音塚 10:55／11:05・・・
桜山休憩所 12:20／13:05・・・乳頭山 14:15／30・・・田浦梅林 15:15／30・・・田浦駅 15:50

参加者

◎大川、☆井上、芹沢、岩方、佐々木、水鳥（体験山行）、☆足立、平川、山田、依田、和久田、
○竹尾（☆は班長） 計 12 名

第 2025 回報告

三増ウォーキング

実施日 11月20日(火) 快晴

係・記録 谷真理子

報 告

晩秋の小春日和の中、三増バス停下車し、最初の目的の養鶏場へ行き売店にてソフトクリームを賞味する。
次は三増合戦場跡へと向かう。首塚、胴塚と連なり周囲に民家が無く夜はさぞ不気味だろうと話がはずむ。
中津川へ抜けると川沿いより入口の塩川滝があり、昔は八管神社の修行僧が滝籠りをしたとの案内板を
みる。勝楽寺へと向かい、ゆっくりランチをとった後角田地区の土手道を行くと一軒の農家の山羊が草
を食みながら「メーメー」と歓迎してくれた。バス道をうんざりする程歩いて急坂を登りきると彫刻が
見事だという龍福寺の山門が待っていた。中に入り大休憩をとる。この寺は一見の価値ありとみた。

中津川の流れが右下に見え、やがて一本松バス停へ到着。バスに揺られて海老名駅へ抜け解散とした。

コースタイム

参加者

○斉藤（郁）、福田、渡部、佐藤、井上（善）、今井、今泉、大溝、小泉 ◎谷 計10名

第2026回報告

街道を歩く（日光街道・その6）

実施日 11月24日（土）曇のち晴れ

係・記録 芹沢隆久

報告

23日が雨の為、24日に実施。江戸時代江戸より船でここまで物資を運んだ乙女河岸まで行く。流れる思川はかつての水勢はなし。小山博物館は日光道中、伊能忠敬画像（国宝）等貴重な展示品があり。時間足らず。逢の榎は江戸と日光の丁度中間点（18里）ようやく半分来ました。間々田八幡宮も街道より外れているが大きな風格ある社だった。池畔の紅葉が余りにも美しいのでここで昼食。8代将軍吉宗が見たと云う持宝寺からの筑波山は建物に遮られ見えず。関ヶ原の勝敗を決めた一つの「小山評定の碑」市役所の前庭にあった。後半は忙しい歩程になったが全員元気に予定通り小金井駅に到着。

コースタイム

間々田駅 9:00・・・乙女河岸 9:20・・・小山市立博物館 10:20・・・逢の榎 10:35・・・本陣跡 10:50・・・11:20
間々田八幡宮 12:00・・・持宝寺 13:18・・・須賀神社・・・小山評定之地碑・・・興法寺 14:00・・・喜沢の一里塚
・・・新田本陣跡・・・16:05 小金井駅

参加者

岩方 大野 足立 戸野部 ○青柳 ◎芹沢 計6名

第2028回報告

馬 頭 刈 尾 根

実施日 11月25日（日）晴～26日（月）曇のち雨

係・記録 池田邦雄

報告

25 日 10 時 10 分古里駅発。快晴のもと、多摩川にかかる万世橋を渡り吉野街道を南下。

徒歩 15 分で登山口へ。この登山道は数ある御岳神社への登山道の一である。イノシシ除けの金網を開い

て入り、奥多摩特有のよく植林された杉林の細く暗い緩斜面をゆっくり歩く。時折低い傾斜の初冬の陽

が樹間を縫って林道に明暗の縞模様をつける。12 時 30 分最初の目的地大塚山 (920m) 着。ベンチで

昼食、晴れているが多少風も出て寒く、早く歩きたいとの声も出た。林間を約 30 分で宿坊御岳山荘着。

日曜とあって参道には家族連れなど参拝客が多かった。荷を預けて御嶽神社に参拝。道中無事を祈る。

夕食後 8:00 から神社本殿横の神楽殿で東京都の無形民俗文化財となっている夜神楽を鑑賞。

この神楽は域内 32 戸の神主方が世襲により楽と舞いを 2 百数十年伝承し続けてきたものという。

幽玄静謐な篠笛と鈴の音の中に金襴豪華な衣装を纏った文化財の舞いを約一時間鑑賞後、光の縦横に連

鎖する東京の夜景を眼下に眺めながら暗闇道を下り 9 時過ぎ宿舎に戻った。

26 日 朝の天候は曇りだが、予報は雨。通常朝食は 8 時からと言うところを宿の好意で 6 時 50 分に早めてもらい、

本日の目的地を当初予定の大岳越えの馬頭刈尾根縦走から、バリエーションルートを選択し易い日出山

(902 m) に変更。9:00 日出山着。幸いまだ雨の心配も少ないと判断されたため、馬頭刈尾根を横目に見

ながらつるつる温泉バス停に下るルートを選択。10 時 45 分温泉着。開店ま近い温泉に入浴。ゆっくり温ま

って外に出ると本降りの雨。12 時発のバスで武蔵五日市駅へ。駅前のそば店で昼食後 13:00 解散した。

コースタイム

25 日 青梅線古里駅 10:10・・・10:25 登山口・・・12:25 大塚山 13:05・・・13:35 岳山荘 (泊)

26 日 御岳山荘 8:00・・・9:00 日出山 9:25・・・10:45 つるつる温泉 12:00==12:20 武蔵五日市駅 13:00
解散

参加者

今泉、岩方、大溝、○斎藤 (郁) 山田 ◎池田 計 6 名

第 2030 回報告

本部合同・諏訪の原公園スケッチハイク

実施日 11 月 29 日 (木) 晴／曇り

係・記録 和智邦久

報 告

飯田岡駅より諏訪の原公園まで長い坂を登る。公園でスケッチの為解散する。

天気が良く風もなく暖かいのでスケッチにはもってこいだ。公園からは大山から丹沢の山々の展望を見

ながら、各自好きな場所でのスケッチを始める。午後はフラワーガーデンから西部丘陵ウォーキングコースを歩く。野山の紅葉を見ながら、いこいの森の遊歩道を歩き風祭駅で解散する。



諏訪の原公園

コースタイム

飯田岡駅 8:50・・・諏訪の原公園 9:20／11:55・・・見晴らしスポット 12:40・・・いこいの森 13:15・・・わんぱくらんど
13:30／13:53・・・水之尾毘沙門天 14:20～14:25・・・萬松院・・・風祭駅 15:15

参加者

竹尾 飯島 齋藤 今井 松本 ◎和智 本部 ○関根 他8名 計 15名

第2033 回報告

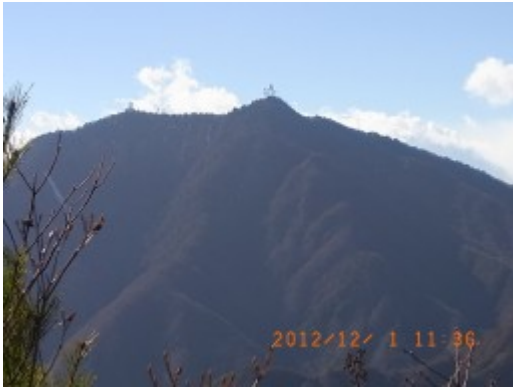
鶴ヶ鳥屋山

実施日 12月1日(土) 薄曇り

係・小澤勝太郎 記録・大溝陽子

報告

薄曇りの中を、笹子駅から歩き始める。途中、季節外れのハウズキが7～8個小さな真っ赤な実をつけていました。林道終点から、数か所徒渉。経験浅い私は滑って転ぶよりはと靴を濡らしながら渡る。急登が続き、曇天でも汗をかくほど。やっと尾根に出ると風が冷たく、休憩も程々に歩き始め頂上に。昼食の中頃に厚い雲から陽がのぼり、皆、歓声。下りは落ち葉の厚い絨毯。下りの苦手な私は、落ち葉にまみれること度々。落ち葉のクッションで怪我もなく、無事下山。静かな冬枯れの山行でした。



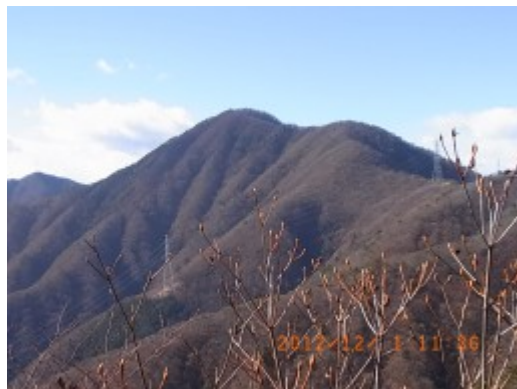
三ツ峠

初狩駅側から鶴ヶ鳥屋山最奥



鶴ヶ鳥屋山山頂にて

本社ケ丸



コースタイム

笹子駅 8:40・・・林道終点 9:05・・・送電線鉄塔 10:00・・・尾根道 10:50・・・11:50 鶴ヶ鳥屋山 12:20・・・林道 13:19・・・

13:50 分岐/近ヶ坂橋へ・・・14:30 林道・・・15:25 初狩駅（解散）

参加者

◎小澤、○宮本、長谷川、板垣、今泉、栗田、大溝

計 7 名

第 2034 回報告

2012 年 忘年山行 玄岳（熱海）

実施日 12 月 8 日（土）～9 日（日） 快晴

係・井上忠秋 記録・谷真理子

報 告

駅到着後待たせておいたタクシーに乗り込み、菜畑山直下の TV 中継塔が立つ小平地まで高度約 1000m を当日は暖かい日差しに誘われて会員 22 名が集い、登山道のゴミ拾い兼忘年山行が実施された。玄岳ハイキングコースのバス停下車後、坂道が始まり、皆元気よく足並みが揃う。登山道入口より枯葉がつもり、カサコソと踏みしめ風の音に耳を澄まし、しかし賑やかな女性陣の声に野鳥たちが時おり警戒の鳴き声を出していた。相模湾展望所で強風にあおられながら昼食となった。その後ひと踏ん張りで頂上へ到着。皆寒くて記念撮影では顔をこわばらせて笑顔を出していた。存分に景色を楽しみすぐ頂上を後にした。帰路は同コースをバス停まで、バス停からホテルまではバスと歩き組に分かれた。忘年会会場は 6 階建豪華なホテルで、温泉、舟盛り料理、カラオケ等を存分に楽しみ、忘年会を思いっきり楽しんできました。



玄岳山頂で記念写真



玄岳山頂より熱海市街

コースタイム

コースタイムは省略

参加者

◎井上(忠)、竹尾、足立、斉藤(郁)、有山、板垣、今井、岩方、小笠原、小澤、斉藤(博)
及川、大川、大野、佐々木、和久田、佐藤、三浦、宮本、服部、依田、谷 計22名

第2037回報告

白 山

実施日 12月21日(金)曇

係・記録 谷真理子

報 告

寒いといきようのない、冬至の日に4名にて飯山観音バス停下車。朱色の橋を渡り、その先は階段を登る。
本堂の脇より女坂に行くことにした。急登の坂を登れば展望台に着くが、白山頂上と神社までを往復する。
早めのランチをとり、ゆっくりするつもりが寒さに負けてしまい、早々と先に行く。いつのまにか4名とも足
早の行進となる。眺めの丘にて180°の展望を楽しむ。スカイツリーは曇りのためか見えなかったが新宿のビル
群は良く見えた。野外ステージ方面へ下りピークにて丹沢の山々を眺めた(ななさわの丘)。その後は足取りも
軽く七沢温泉バス停へ抜け、丁度来たバスが本厚木行でラッキーでした。駅に到着後忘年会を行い解散とした。
なお井上夫人は入会前の体験山行とした。

コースタイム

本厚木駅＝バス 35分＝飯山観音 10:10・・・女坂入口 10:4・・・展望台 11:15・・・白山 11:18・・・展望台
11:30～12:10・・・

むじな坂 12:30・・・物見峠 12:35・・・七沢森林公園分岐 13:25・・・順礼峠 13:30・・・ながめの丘 13:37・・・
野外ステージ分岐 13:47・・・ななさわの丘 13:5・・・七沢温泉バス停 14:20＝バス＝本厚木駅 15:10

参加者

平川、井上正、美知子夫妻、◎谷 計4名

第2038回報告

街 道 を 歩 く (日光街道その7) 小金井宿～雀宮宿

実施日 12月22日(土) 雨のち曇り

係・芹沢隆久 記録・和智邦久

報 告

小雨の中小金井駅より歩く。すぐに小金井一里塚に着く、両塚を残している国の史跡になっている。立派な一里塚である。小金井本陣跡、慈眼寺を過ぎ小雨の中をひたすら石橋宿に向かって歩く。石橋宿に入り雨が降っているので蕎麦粒屋で昼食にする。休憩してから歩き始める。雀宮宿に入り、脇本陣跡過ぎ今回のゴール雀宮駅へ。

(日本橋から雀宿まで 101.7km)

コースタイム

小金井駅 9:15・・・小金井一里塚跡 9:29・・・慈眼寺・・・金井神社・・・本陣跡 9:38・・・畑の中の日光道・・・夕顔橋の石仏像 10:50・・・石橋宿・・・脇本陣跡 11:14・・・鞘堂地藏堂・・・星宮神社・・・脇本陣跡 14:08・・・雀宮駅

参加者

◎芹沢 ○青柳、岩方、大野、足立、戸野部、和智 計7名

第2039回報告

三花じょろ道～高松山 (801 m)

実施日 12月23日(日) 曇りのち晴

係・齋藤郁夫 記録 宮本省治

報 告

田代向でタクシーを降り、林道を歩くこと20分で花じょろ道入口に到着、この道は2年前に地元の人が整備したことにより、実に歩き易い道になっている。1時間程でヒネゴ沢乗越に登りつめ、左折しビリ堂からの道を合わせた後、高松山に着く。南西方向の展望が素晴らしいが、曇り空のため富士山は見えない。下りは第六天を通り最明寺史跡公園へ、昼食後、みかん畑の道を松田山ハーフガーデンへ、そして松田の駅へと下る。を取りながら、のんびりと歩いた。今年最後の山行、大満足！

コースタイム

新松田駅 7:00＝タクシー＝花じょうろ道看板 7:30・・・花じょうろ道入口 7:55/9:00・・・ヒネゴ沢乗越 9:10・・・高松山 9:40/10:00・・・第六天 10:40/45・・・旧高松分校 11:15/25・・・最明寺史跡公園 12:10/45・・・松田山ハーフガーデン 13:40/14:10・・・松田駅

参加者

◎齋藤(郁)、谷田部、板垣、小笠原、石井(純)、三浦、石井(誠)、宮本、○小澤 計9名

第 2040 回報告

羽 田 七 福 神 いなりめぐり

実施日 1月5日(水) 曇り時々晴れ

係・記録 祖父川精治

報 告

今朝は新年最低気温の寒気、各稲荷社の手洗い鉢にツララができるほど空気が冷たい。

幸いにも無風で見た目より寒さを感じない。弁天橋から離着陸するジェット機が遠望できる。1日から5日ま

で、白い絆纏を着用している係りの人たちが御朱印の受付をしている。いつもは無住不在の稲荷社も、参詣

の人たちが訪れて賑やかである。羽田地域に根を下ろした稲荷信仰で、建て込んだ下町の風情や商店街の賑

わいがよかった。東官稲荷社前の、中国料理店で打ち上げをして工事中の糀谷駅へ出る。

コースタイム

京浜急行穴守稲荷駅 10:20 ～ 糀谷駅 14:40 携帯歩数計 13,000 歩 9キロ

参加者

○井上夫妻、今泉、小笠原夫妻、竹尾、飯島、岩方、佐々木、佐藤、今井、有山
大野、依田、足立、大川、戸野部、細井、関、渡部 ◎祖父川 計 21 名

第 2041 回報告

湯 河 原 ウォ ー キ ン グ

実施日 1月7日(月) 曇り/晴

係・記録 谷 真理子

報 告

曇り空より薄日が差してきた真鶴駅に7名が集い、福浦港に着いた頃にはには全員上着を脱ぎ、これからの坂道へと

備える。バス通りの山越えを数回繰り返した後、宮渡橋へ出る。ここからが今回の本命で、向かい側の山麓の住宅

地より入ることになり、一汗かく。みかん畑よりランチ場所の瑞応寺へたどり着き、しばし、景色と目の前のみか

んの木に見とれつつ、食事を取る。その後は湯河原随一と言われる眺望の良い林道をひたすら歩くといつの間に

か、住宅地へ抜け出る。細い路地を行くと、ビャクシンの木で有名な城願寺へ着き、800年の歴史の木に圧倒され

てしまった。木肌の模様の見事な事と枝葉とのコントラストは見事でありました。ゆっくり休憩し、湯河原駅に

抜け、解散とした。

コースタイム

コースタイムは省略

参加者

○齋藤（郁）、小嶋、岩方、今井、小泉、水鳥、◎谷 計7名

第2042回報告 金 時 山 (1212m)

実施日 1月12日(土) 晴

係・記録 鈴木国之

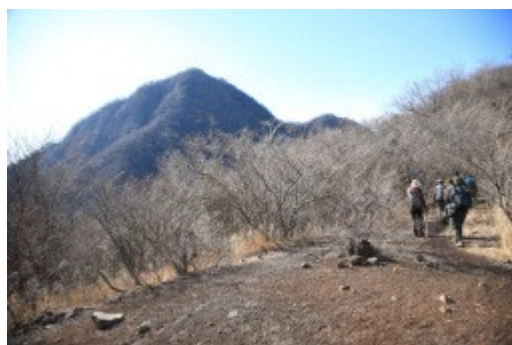
報 告

地藏堂から車道を歩く、途中猟犬供養の碑の下の所にイノシシの毛皮が何頭か干されていました。いつ来ても見かけるので宣伝用？かも知れません。車道が終わり、沢を何度か徒渉し、檜の林の中を黙々と歩く。猪鼻砦跡と言われる足柄峠からの尾根に出ると突然富士山が見えました。係りは遅れて来る柴田さんを待ち、他のメンバーは先に。ここから山頂まで急登の連続。手すりを捕まりながら、階段を登る。富士山の右側裾野には北岳・鳳凰・甲斐駒も見参。金時山頂は混雑、風もあり、寒かったので金太郎茶屋で味噌汁と持参のおにぎりで昼食。帰りは猪鼻砦まで戻り林道ゲートから夕日の滝へ。滝はまだ全面氷結になっていなかった。1/15日に夕日が滝に落日するので夕日

の滝と名付けられたとの事。寒い冬の日、好天気に恵まれました。



丸鉢山から富士山



金時山

コースタイム

関本 8:30＝バス＝地藏堂 8:50/9:00・・・分岐 9:35・・・猪鼻砦跡 11:05・・・金時山 11:50/12:30・・・猪鼻砦跡 13:05・・・

夕日の滝分岐 13:30/45・・・沢 13:45/14:00・・・夕日の滝 14:45・・・地藏堂 14:45/15:05＝バス＝関本 15:40

参加者

◎鈴木(2)、今泉、竹尾、久保、水鳥、宮本、柴田 計8名

第2043回報告

平塚七福神

実施日 1月13日(日) 晴

係・記録 熊谷松治

報告

平塚七福神は、一昨年設定された新顔の七福神である。平塚は戦災で市街地の大半を焼失し、江戸時代の宿場の

遺構も殆んど残っていない。駅西口から直ぐの紅屋町公園に、怪談話などで知られる、番町皿屋敷の「お菊塚」がある。旧東海道を西に行くと、平塚宿の「江戸見附」の案内板が立っている。本宿郵便局の交差点を左に渡って小路を入ると、妙安寺(大黒天)がある。春日神社(毘沙門天)から、平塚八幡宮(弁財天)境内で昼食。

午後は相模川に近い蓮光寺布袋尊から東海道線の南側の長楽寺(壽老尊)、三嶋神社(恵比寿)・善性寺(福祿寿)で満願。20分程歩いて平塚駅南口に着く。



コースタイム

平塚駅 9:45・・・お菊塚 9:50・・・妙安寺 10:10/20・・・春日神社 10:35/40・・・平塚の碑・要法寺 10:55・・・
平塚八幡宮(昼食) 11:30/12:15・・・蓮光寺 12:45・・・長楽寺 13:15/30・・・乳頭山 13:35・・・
三嶋神社 13:45/55・・・善性寺 14:00・・・平塚駅南口 14:20

参加者

山田、岩方、佐々木、松本、関、鈴木(2)、◎熊谷 計8名

第2044回報告

両崖山(251m)～足利・行道浦(442m)

実施日 1月19日(土) 快晴

係・記録 竹尾亮三

報 告

足利市街地を見下ろす、朱色の織姫神社で安全を願い山道に入る。富士山と浅間山の真白い姿を見ながら岩山のピークを幾つか超えて両崖山に到着。ここから行道山に向かう北斜面には14日に降った雪が残っていて慎重に降る。途中陽だまりでゆっくりと昼食。関東ふれあいの山道を7、8回のアップダウンを経て行道山(展望台)に到着。赤城連山、日光連山などの展望が素晴らしい。途中で寝釈迦像等の石仏群を見て、山腹の浄因寺に到着。葛飾北斎の描いた「雲のかけ橋」を見上げる。橋の先端の岩の上にはお堂のような建物が建っている。展望と雪道も少し楽しめた、変化ある冬の陽だまり山行でした。



浄因寺のロウバイ



浄因寺境内(葛飾北斎描いた所)



葛飾北斎描いた絵



頂上からの山脈



織姫神社

コースタイム

足利駅 9:15・・・織姫神社 9:40/50・・・両崖山（足利城址） 10:50/11:00・・・大岩山 11:30/40・・・行道山（見晴台） 13:55/14:10・・・浄因寺 14:45/15:00・・・行道山バス停 115:25＝タクシー＝足利市 15:40/15:55
＝久喜駅＝横浜駅

参加者

井上（忠）、今井、岩方、三浦（良）、依田、和久田、渡部、和智、◎竹尾 計 9 名

第 2045 回報告

三 浦 ア ル プ ス

実施日 1月21日(月)晴・曇り

係・記録 谷 真理子

報 告

当日は少し暖かく感じる朝、新逗子駅に集合。駅から川沿いの道を行き、桜山より長柄に抜け、森戸から予定の鬼が作谷に入る。この付近で檻に捕まったアライグマを見て驚いた。このルートは入る人も少なく、ひどい藪になっており、崩れた登山道をなんとか尾根道まで這い上がった。その後は下二子山、上二子山と順調に歩き、上二子山から椿尾根を目指して沢歩きになった。ところが椿尾根取り付け点を見過ごしてしまい、森戸川林道終点で早めのランチ。その後のルートを皆で相談した結果、中尾根より乳頭山へ、更に東尾根から北尾根に入り、東逗子駅への長い道を駅まで歩き解散した。



コースタイム

新逗子駅 8:35・・・鬼が作谷入口 10:00・・・下二子山 10:50・・・上二子山 11:10・・・倉岳山 13:45・・・二子山
コース入口

14:25・・・林道終点 12:00/12:30・・・六把峠 13:10・・・乳頭山 13:35・・・東尾根 13:50・・・北尾根分岐 14:15・・・
東逗子分岐

14:40・・・東逗子駅 15:40

参加者

○和智、齋藤（郁）、小嶋、平川、小澤、岩方、小泉、大溝、桜井、◎谷 計 10 名

第 2046 回報告

高 畑 山 ～ 倉 岳 山

実施日 2月26日(土) 晴れ

係・小澤勝太郎 記録 谷田部松枝

報 告

鳥沢駅 9 時に集合、大月周辺の山々はすっかり雪山です。天気は雲一つない冬晴れ、富士山の展望が楽しみです。高畑山・倉岳山は秀麗富嶽 12 景で富士山もバッチリ見られるそうですが鳥沢駅から 30 分ほど歩き、貯水池の側の東屋でアイゼンを付け登山開始、沢沿いの平坦な道から高度を上げ、風が強く寒いのですが歩いていれば暑い。凍った残雪にアイゼンが気持ちよく効く。汗をかきながら頑張って登ります。高畑山の頂上の西側に富士山が(頭かくしてさず状態)残念！40 分ほど休憩して倉岳山へ、高畑山から 1 時間弱でした。登山口から下山口までアイゼンを付けたままの山歩きでした、足よ、お疲れさま。



コースタイム

鳥沢駅 9:00・・・石仏 10:35・・・高畑山 12:00・・・天神山 13:05・・・倉岳山 13:45・・・立野峠 14:25
・・・倉岳山登山口 15:40・・・梁川駅 16:07

参加者

◎小澤、○和智、渡部、宮本、久保、長谷川、谷、今泉、板垣、桜井、谷田部 計 11 名

第 2047 回報告

渋 沢 ウ ォ ー キ ン グ

実施日 2月5日(水) 曇り

係・記録 谷 真理子

報 告

あいにくの曇り空の渋沢の町の住宅地には、民家の庭の梅の木には花がちらほらと咲き出していた。四十八瀬川に架かる甘柿橋から本日の本命の上地区へ向かう。渋沢にもこんな田舎が残っていたかと思う程の土地柄で、のんびり顔の人々、野良猫達、さらに、道端の夫婦の道祖神も多かった。ウォーカー達にもあまり知られていないルートを選んだつもりです。1467 年創建の曹洞宗の古刹である。宗剎寺(そうえんじ)の入口のベンチを借りランチとする。寒いので早めに出発した。その後は昼間でも、うす暗い道を下りきり、国道 246 号へ向かい蛇塚交差点から、小田急の踏切を渡り昔の国道 170 号の山道に沿って歩き神山地区より新松田へ抜け駅にて解散とした。

参加者

○齋藤(郁)、岩方、古屋、大溝、小泉、水鳥、◎谷 計 7 名

第 2048 回報告 鹿野山 (379m) ～九十九谷展望台～マザー牧場

実施日 2月9日(土) 晴れ

係・記録 竹尾亮三

報 告

神野寺バス停より車道を進み、九十九谷の展望台に到着。房総丘陵の谷と尾根が重なる光景を眺める。

白鳥神社内の鹿野山最高峰の白鳥峰に登る。往路を戻り神野寺の境内に入る。ピークが熊野峰である。

最後の春日峰には日本最初の1等三角点があり、国土地理院の測地観測所の敷地内にある。土曜日は門が閉鎖。

マザー牧場のハイキングコースに入り、菜の花は1割程度ロウバイの花の香りとスイセンが満開である。馬牧

場に着くとOさんが白馬に跨り一周。待望のジンギスカンハウスに到着、色々で乾杯。肉、野菜を焼き、牛乳も

頂く。Sさんがハーモニカーを吹き皆で合唱。楽しい軽ハイク・グルメ山行でした

コースタイム

佐貫駅 8:50＝タクシー＝神野寺 9:05～10・・・九十九谷展望台 9:30～40・・・白鳥峰 9:55～10:00・・・神野寺 (熊野峰)

10:20～40・・・春日峰入口ゲート 11:00・・・マザー牧場 11:40・・・牧場ハイキングコース・・・ジンギスカンレストラン

12:50～14:40・・・売店など散策 15:10＝バス＝金谷港 16:00～20＝久里浜港 17:00

参加者

○足立、☆服部、金本、岩方、今井、関、大野、齋藤博、☆川野、松本、依田、和久田、佐々木、大川
◎竹尾 計 15 名

第 2049 回報告 発 端 丈 山 (410m)

実施日 2月16日(土) 薄曇り

係・小澤勝太郎 記録 清水利恵子

報 告

大仁駅に着く電車のなかから城山の岩壁が目に入ってきました。城山登山口から石ころがゴロゴロした道

を歩き、右手に南壁を仰ぎながら垂直の壁を見ていると、岩壁に若い女の人が取り付いていました。

カッコイ～曇り空で風はないのですが真冬の冷たい空気の中、城山分岐に到着しました。ザックを置

いて山頂へ、そして分岐まで戻り発端丈山へ向かいます樹林帯で歩きやすい山道でした。発端丈山の

分岐でようやく日が差ししてきましたので、ここで昼食を取りました。腹ごなしに益山寺に樹齢850年の楓を見に行きました。見る価値あり！分岐から山頂へは急な階段状の上り坂を登り到着しました。富士山と駿河湾のパノラマが目に入ってきましたが、ちょっと残念なことに山頂が少し雲で見えなかつたです。その後は急坂を長浜へ下るだけでしたが昨日雨が降ったので植林帯の急斜面は滑る滑る～。やっと傾斜が緩むとみかん畑、そして海岸・シーパラダイスをへて伊豆長岡駅に到着。昨年10月の末に突発性難聴で入院して目眩に慣れた後の山行でしたが元気で楽しく歩けました。



発端丈山



発端丈山山頂にて

コースタイム

大仁駅 9:00・・・城山登山口 9:30/35・・・城山分岐 10:15/20・・・城山山頂 10:37/45・・・葛城山分岐
11:00/05・・・
益山寺分岐 12:10/50・・・益山寺 13:10/50・・・発端丈山 13:35/50・・・展望台 14:20/25・・・シーパラダイス
15:10/15
==長岡駅 15:40 着

参加者

◎小澤、○谷、岩方、大野、板垣、今井、和智、佐々木、井上（忠）、柿沢、渡部、小笠原、大溝、清水

計 14 名

第 2051 回報告

鎌倉ウォーキング

実施日 2月21日(木) 晴れ

係・記録 谷 真理子

報告

ここ数日続いた悪天候がうそのように晴れ、寒さが身に凍みる朝となり逗子より歩く。やまなみルートより光蝕寺へ下り、十二所より天園コースに入り大平山を目指す。まだ溶けていない雪が眩しく光っていた。鳶に脅えながら日だまりでランチ後、天園コースより今泉台の公園へ出る。散在ヶ池公園より今泉地区へ入り、岩瀬尾根へ入る。整備されているようでも奥へ行く程ヤブも多かった。ミニピークを数回乗り越え分岐も多くて里山らしいコースだと思っていると、ポンと畑の一角へ抜け出て下りきると大長寺の境内に出た。大休止し大船へ向かい駅にて解散。全員揃って打ち上げ後、それぞれ帰路につきました6時間の山とウォーキングでした。ここからが鎖の岩場が山頂まで続く。氷の残っている数箇所を慎重に登る。山頂はぼやけて見えて残念でした。我々13名が写真を撮る広さしかない。両神山、武甲山が青空に展望。同じ鎖場を降り、奥の院から福寿草園に向かう。見頃な福寿草が次々と迎えてくれる。少し降るとロウバイ林から香りが漂ってくる。満開の花に蕾も加わり見頃である。山道、車道を歩き、節分草園に到着。準絶滅危惧のセツブンソウを町が大切に管理している。白花の中心に黄色と青紫色が見え、可憐な花の群生地を一回りしてバスに乗り込む。花と展望と緊張感のある鎖場を楽しんだ山行でした。

コースタイム

逗子駅 9:00・・・大船駅 16:00

参加者

○齋藤(郁)、井上(忠)、岩方、大野、大溝、小泉、◎谷 計7名

第 2050 回報告

ハンターマウンテン塩原・スキー場

実施日 2月21日(木)～23日(金)

係・記録 竹尾亮三

報告

1日目:ホテルに到着後Yさんは芝居見物(無料)と温泉三昧。6名が送迎バス(無料)でスキー場へ。5名がスキーを楽しむ。W氏の女性2名の指導後、初級コースの滑りを2回見て、中級コースを2回滑り、

その滑りを見て、全員がゴンドラで山頂へ、誰も転ばないで山麓まで降りる。休憩不要という女性
性の声で再び山頂へ。山頂と中腹までのゲレンデもリフトを使い楽しむ。最後は山頂からバスの
待つ山麓へ。夜は部屋で飲みながらの歓談を楽しむ。

2日目：M氏はスケッチの為に温泉街と他へ。6人でスキー場へ。天気、雪質、ゲレンデの状態は今日も良好。

女性3名の初級、中級コースの2回ずつの滑りを見て山頂へ。昨日滑り残した、中腹のゲレンデと山頂
からの一番の急斜面コースも全員で滑る。山麓のレストハウスで昼食をとり、その後2回山頂へ。山頂
直下のゲレンデの下に見えているレストハウスで 14:00 のコーヒー休憩を決め、順番に滑り降りる。

女性陣がレストハウス近くの緩斜面到着を確かめて、手前を見るとスキーの上手な W 氏が倒れている。

予想もしない出来事。H 氏がパトロール隊を要請。山麓の建物内で応急処置し、救急車で病院へ。

一日も早いご回復を願うばかりです。

3日目：高速道路も順調で予定の時刻に横浜に到着。7人で一緒に帰れなかった事が非常に残念でした





コースタイム

1日目：横浜駅西口 8:10＝バス＝塩原温泉（ホテル） 11:40/13:00 送迎バス＝ハンターマウンテンスキー場

・・・16:00＝バス＝ホテル 16:30

2日目：送迎バス 8:20＝スキー場 8:40～16:00＝バス＝ホテル 16:20

3日目：ホテル 12:10＝途中昼食＝横浜 16:15

参加者

平川、松本、渡部、板垣、大川、山田、◎竹尾 計7名

第2053回報告

多摩よこやまの道

実施日 3月5日（火） 晴れ

係・記録 谷 真理子

報告

真青な空にマッチした、駅の屋根には5機の風力発電のプロペラが微風に吹かれ、優雅に回っていた。

よこやまの道に入り花粉症の人が本日は辛そうでしたが、見晴台では春霞らしく秩父連峰や丹沢の山々は、

ぼやけて見えて残念でした。木々の芽吹きも始まり、鶯の練習鳴きもよく聞こえた。一本杉公園にて保存

されている民家の見学や園内で飼われている、チャボを追いかけたり、梅の香りを楽しんで心地良いラン

チタイムとなった。その後は、道標に従い歩き、多摩の福祉センターのメルヘン調な、お城の様な造りに

一同驚いたりしたが、その先の急坂である、まむし坂より改めて眺め直した。駅に近い公園にて大休止し、

唐木田駅に予定より早めに着き解散とした。

コースタイム

はるひ野駅 10:15・・・唐木田駅 14:00

参加者

平川、佐々木、岩方、大野、柴田、小泉、水鳥、◎谷、 計8名

第 2052 回報告

四阿屋山(772m)～福寿草園～セツブンソウ

ウ

実施日 3月9日(土) 快晴

係・記録 竹尾亮三

報 告

無風で、暖かい山行日和の中、落葉の山道を登っていく。山頂直下の奥の院で昼食を済ませる。

ここからが鎖の岩場が山頂まで続く。氷の残っている数箇所を慎重に登る。山頂はぼやけて見えて残念でした。

我々 13 名が写真を撮る広さしかない。両神山、武甲山が青空に展望。同じ鎖場を降り、奥の院から福寿草園に向

かう。見頃な福寿草が次々と迎えてくれる。少し降るとロウバイ林から香りが漂ってくる。満開の花に蕾も加わ

り見頃である。山道、車道を歩き、節分草園に到着。準絶滅危惧のセツブンソウを町が大切に管理している。

白花の中心に黄色と青紫色が見え、可憐な花の群生地を一回りしてバスに乗り込む。花と展望と緊張感のある鎖場を楽しんだ山行でした。

コースタイム

三峰口駅 9:20＝バス＝薬師堂 9:55・・・両神神社奥社 11:45/12:25・・・四阿山 12:50～13:05 福寿草園・ロウバイ園

13:45～14:05 セツブン草園 14:50～15:15＝バス＝小森＝三峰口駅 16:05

参加者

○宮本、☆古屋、依田、和久田、佐々木、桜井、福島、☆大溝、岩方、今井、青柳、大野、◎竹井 計 13 名

第 2052 回報告

四阿屋山(772m)～福寿草園～セツブンソウ

実施日 3月9日(土) 快晴

係・記録 竹尾亮三

報 告

無風で、暖かい山行日和の中、落葉の山道を登っていく。山頂直下の奥の院で昼食を済ませる。

ここからが鎖の岩場が山頂まで続く。氷の残っている数箇所を慎重に登る。山頂はぼやけて見えて残念でした。

我々 13 名が写真を撮る広さしかない。両神山、武甲山が青空に展望。同じ鎖場を降り、奥の院から福寿草園に向

かう。見頃な福寿草が次々と迎えてくれる。少し降るとロウバイ林から香りが漂ってくる。満開の花に蕾も加わり見頃である。山道、車道を歩き、節分草園に到着。準絶滅危惧のセツブンソウを町が大切に管理している。白花の中心に黄色と青紫色が見え、可憐な花の群生地を一回りしてバスに乗り込む。花と展望と緊張感のある鎖場を楽しんだ山行でした。

コースタイム

三峰口駅 9:20＝バス＝薬師堂 9:55・・・両神神社奥社 11:45/12:25・・・四阿山 12:50～13:05 福寿草園・ロウバイ園

13:45～14:05 セツブン草園 14:50～15:15＝バス＝小森＝三峰口駅 16:05

参加者

○宮本、☆古屋、依田、和久田、佐々木、桜井、福島、☆大溝、岩方、今井、青柳、大野、◎竹井 計 13名

第2054回報告 ミツバ岳 ～ 権現岳

実施日 3月16日(土) 晴れ

係・小澤勝太郎 録・小泉葉子

報告

御殿場線谷峨駅より、富士急湘南バスに乗り、浅瀬入口バス停にて下車。丹沢湖湖畔を歩き、途中の小公園で自己紹介。総勢15名。空は青く、爽やかな気候に気分爽快！ 滝壺橋よりミツバ岳への登山道に入る。ひたすら登っていくと、眼下に見える丹沢湖は青緑色に輝き、真っ白な富士山が目の端に映る。ミツバ岳山頂付近は、ミツマタが群生し、六分咲きだが、ほのかに甘い香りが漂ってくる。皆で、Iさんお手製のケーキを頂き、雄大な富士山をバックに写真をパッチリ！ 小休止し、次の目標の権現山に向かう。これまでに比べ、かなり早いピッチで進み、権現山の山頂付近にちょうど12時に到着。ゆっくり昼食を取り下山。ところが、この下りがなかなか。崩落のため足場を確保しにくい箇所がいくつか有り、油断禁物！そして、無事細川橋バス停に着き、解散。翌日から筋肉痛となったのは、鍛錬のたりない私だけだったのしょうか！？



コースタイム

谷峨駅 7:46 = 浅瀬バス停 8:15/8:20・・・滝壺橋登山口 9:00・・・ミツバ岳 10:55/11:10・・・権現山
12:00/12:40・・・二本杉峠 13:15・・・14:40 細川橋バス停

参加者

◎小澤 ○小笠原 板垣 谷 小泉 谷田部 今井 福島 石井 三浦（昌） 大溝 今泉 長谷川
宮本 和智 計 15 名